

平成 30 年度 第 1 学年

授業シラバス・年間指導計画

Index

国語 P.1 ~ P.3

地歴・公民 P.4 ~ P.5

数学（理数） P.6 ~ P.21

理科（理数） P.22 ~ P.30

保健体育 P.31 ~ P.32

芸術 P.33 ~ P.35

英語 P.36 ~ P.41

サイエンス P.42 ~ P.45

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	国語総合（現代文）	2	普通科 理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	「国語総合 現代文編」（筑摩書房）
教科書以外の教材（発行所）	「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版習社） 「重要頻出漢字リアルマスター 3300」（尚文出版）他

目 標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
学習のねらい	1. 評論 ・文章の論理展開の構造を把握し、その構造を読み解くことから筆者の主張を理解する。 ・自己と世界（社会）を取り巻く関係について意識的に考え、扱われている問題を自分の問題として捉えて筆者の洞察をふまえながら自分なりの見解を持つようにする。 2. 小説 ・優れた描写、効果的な表現について学んで言語感覚を磨き、想像力や感受性を豊かにする。 ・小説の構造・展開・主題の把握など小説を読む基本的な方法を学んで内容を理解し、その主題を自己の問題として捉え、新しい発見をしてゆく。 3. 詩 ・詩の世界や表現に親しみ、それぞれの作品の中で言葉が独特な力を有していることを理解して、自分の言語力やものの見方を深める。 4. 短歌と俳句 ・短歌や俳句を読み味わって、その魅力を理解し、自分の感性や観念の拡充・深化を図る。 5. 表現 ・高校生として身に付けておきたい表現事項を学び、自分の考えや主張をうまく相手に伝えることができるようになる。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	1 回考査	「境目」「ことばとは何か」
		2 回考査	「羅生門」「〈わたし〉のいる場所」「二十億光年の孤独」
		3 回考査	「魔術化する科学技術」「棒」
		4 回考査	「感性の考古学」「夢十夜」
		年度末考査	「開かれた文化」「マルジャジーナの知恵」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、現代文への「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○具体的な評価は、授業中での考察・ノート・小テスト・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	○予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現を辞書などで確かめ、ノートに整理するとともに、疑問点を明らかにしておく。 ○授業中は板書事項をノートに書き写すのは当然だが、他の生徒の発言にも注意しつつ、予習で理解できなかった問題点を整理しながらまとめる。 ○復習としてその日のうちに再度、教科書・ノートを確認、疑問点が解明されたか確認する。 ○なお、課題として配布している問題集は、自分の力で解答した上で解答と照らし合わせ、その際に解説をよく読み、理解を深めることが大切である。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前期	4	1	「境目」	1 1	・文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図をとらえる。
	5		「ことばとは何か」 ＜1 回考査＞		・評論の基本的な読み方を習得する。
		2	「羅生門」	2 1	・小説の基本的な読解方法を習得する。 ・近代の代表的な小説を読んで、短編小説についての理解を深め、小説のおもしろさを味わう。
	6	3	「わたし」のいる場所		・評論の読解方法を習得する。
	7	4	「二十億光年の孤独」 ＜2 回考査＞		・散文詩に親しむとともに、様々な表現の工夫に目を向ける。
	8	5	「魔術化する科学技術」 【クロスカリキュラム教材】	1 4	・評論の読解方法を習得する。
	9	6	「結ばれていく時間」		・現代科学が抱える問題点に気付く。
		7	「棒」		・小説の読解方法を習得する。
			＜3 回考査＞		・小説の持つ寓意性について考える。
後期	10	8	「感性の考古学」	1 6	・評論の読解方法を習得する。
		9	「夢十夜」		・全体の構成を把握し、論の展開に即して正確に内容を読み取る。
	11		「文章を要約する」		・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
	12	10	＜4 回考査＞		・文章の内容を適確に読み取り、簡潔にまとめる技術を身につける。
	1	11	「開かれた文化」	1 6	・評論の読解方法を習得する。
					・文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。
	2	12	「動的平衡の回復」 【クロスカリキュラム教材】		・例を適切に読み取り、筆者の主張へと集約させる読解方法を習得する。
					・環境、生命についての問題意識を喚起する。
	3	13	「マルジャジーナの知恵」 ＜年度末考査＞		・幅広く文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする
			総時間数	7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	国語総合（古文）	2	普通科・理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	「精選国語総合〔古文編〕」（筑摩書房）
教科書以外の教材（発行所）	「古典常識も学べる新明説総合古典文法」（尚文出版） 「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版） 「全訳読解古語辞典」（三省堂） 他

目 標	国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
学習のねらい	1 古文入門（説話『宇治拾遺物語』を中心に） ・古典を学ぶ意義について考える。 ・繰り返し音読することで、古文特有のリズムや歴史的仮名遣いに慣れる。 ・説話の特性を理解し、作品の構成・展開・内容を読み取る。 ・文法事項については、動詞の活用の習得を中心とする。 2 物語：『伊勢物語』 ・物語の特性と普遍性を理解する。 ・叙述に即して登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・和歌の修辭、歌物語における和歌と地の文の役割を理解する。 ・作品の成立背景やその時代に生きた人々の生活・思想・心情を学ぶ。 3 日記：『土佐日記』『更級日記』 ・日記文学の特性を理解する。 ・女性仮託や麗化表現といった『土佐日記』の特性の意味するものを考える。 ・叙述に即して作品の内容を的確にとらえる。 ・既習の文法事項への理解を深め、読解に結びつける。 4 随筆：『徒然草』『方丈記』 ・随筆の特性を理解し、人間や社会に対する筆者の思想・心情を読み取る。 ・構成や展開に即して文章の内容を的確にとらえる。 ・優れた叙述や表現上の特色を学ぶ。 ・用言の活用、基本的な助動詞・助詞の意味用法、敬語法を習得する。 5 和歌：『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 ・和歌を体系的に学習し、それぞれの和歌集の歌風を理解する。 ・各作品の読解・鑑賞を通して、和歌の魅力と普遍性を知る。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 （予定）	1 回考査	『宇治拾遺物語』 動詞の活用
		2 回考査	『宇治拾遺』『伊勢物語』 形容詞・形容動詞の活用
		3 回考査	『土佐日記』『更級日記』 助動詞の活用
		4 回考査	『徒然草』『方丈記』 助動詞の活用・敬語の導入
	年度末考査 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』		
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、古典への「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の考察、小テスト、課題提出などを活用して総合的に行う。全体の評価は、現代文・古文・漢文を総合したものである。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○しっかり音読すること。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねを続けること。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳を考えてくこと。 ○調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。授業で学んだことはできる限りその場で覚える。 ○文法事項のほとんどをこの1年で学習するので、繰り返し復習をする。		

年間授業計画表					
期	月	転	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	1	1 古文入門 プリント教材 『宇治拾遺物語』 「歴史的仮名遣い」 「古語」 「品詞の種類」 「活用と活用形」 「動詞の活用」	4 7	・歴史的仮名遣いの特徴とその読み方を理解し、本文を正しく音読する。 ・古語と現代語の違いを認識する。 ・単語、文節、品詞の概念を理解する。 ・活用の概念を理解し、動詞の9種類の活用を知り、識別できるようにする。 ・仮定条件と確定条件の違いを理解する。 ・助動詞「けり」「む」の意味用法を理解する。 ・既習の知識をもとに、部分的な口語訳ができるようにする。 ・説話というジャンル、『宇治拾遺物語』について学ぶ。 ・用言の活用を理解する。
	5		《1 回考査》		
	6	2	『宇治拾遺物語』 「形容詞の活用」 「形容動詞の活用」 2 物語 『伊勢物語』	5 13	・歴史的仮名遣いの特徴とその読み方を理解し、本文を正しく音読する。 ・古語辞典の使い方を理解し、指示された語の意味を調べる。 ・古文特有語、古今異義語に留意する。 ・品詞の種類を識別できるようにする。 ・和歌の修辭、歌物語における和歌と地の文の役割を理解する。 ・物語の特性と普遍性を理解する。 ・叙述に即して登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・係り結びを理解する。 ・基本的な助動詞の意味用法を理解し、口語訳に生かすことができるようにする。 ・優れた叙述や表現上の特色を理解する。 ・歌物語というジャンル、『伊勢物語』について学ぶ。
	7		《2 回考査》 「助動詞の活用」		
	8				
	9	3	3 日記 『土佐日記』	9	・作品の成立背景やその時代に生きた人々の生活・思想・心情を学ぶ。 ・女性仮託や麗化表現といった『土佐日記』の特性の意味するものを考える。 ・旅立ちに当たっての、ことの次第を理解する。 ・助動詞「なり」を識別できるようにする。 ・日記文学の特性を理解する。
	10		『更級日記』	9	・作者の少女時代の心情や物語へのあこがれを読み取る。 ・基本的な助詞・呼応の副詞を知る。
	11		《3 回考査》		
	12	4	4 随筆 『徒然草』 『方丈記』 《4 回考査》	16	・兼好が、人間心理のかすかな動きを的確にとらえ、観察している点を理解する。 ・敬語法を理解し、助動詞・助詞について理解を深め、口語訳に生かす。 ・『徒然草』の多様性を理解し、考察する。
後 期	1	5	5 和歌と俳諧 『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』	15	・和歌を体系的に学習し、それぞれの和歌集の歌風を理解する。 ・修辭に留意しながら和歌を解釈する。 ・各作品の読解・鑑賞を通して、和歌の魅力と普遍性を知る。
	2		《年度末考査》		
	3		《年度末考査》		
総 時 間 数				78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	国語総合（漢文）	2	普通科・理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	精選国語総合古典編改訂版「漢文編」（筑摩書房）
教科書以外の教材（発行所）	「新明説漢文～句法と語彙を一緒に学ぶ～」(尚文出版) 「プレミアムカラー 国語便覧」(数研出版)

目 標	国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
学習のねらい	1 漢文入門 ・古典を学ぶ意義、漢文を学ぶ意義について考える。 ・繰り返し音読することで、漢文のリズムを味わい、訓読に慣れ親しむ。 ・漢文の構造を理解する。 ・訓読のきまり、書き下し文のきまりを理解する。 2 故事 ・故事成語のもとになった話の内容をとらえたうえで、故事成語の意味について理解する。 3 唐詩 ・近体詩のきまりを理解する。 ・漢詩のさまざまな詩形に触れ、内容を理解し鑑賞する力を身につける。 ・漢詩に詠まれた情景を読み取り、作者の心情を的確にとらえる。 4 史伝 ・日本人にもよく知られた作品を原文で実際に読むことを通して、さらに古典を読む楽しみを具体的に体験する。 ・まとまった分量の漢文を読むことによって、訓読の方法に習熟するとともに、基本的な漢文読解の力を養う。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読みとる。 5 文章（雑説・売油翁） ・論理的に構成された文章を読み味わい、中国の歴史・文化に親しむ。 ・筆者の思いを理解し、訓読の方法に習熟するとともに漢文読解の力を養う。 6 思想（論語・孟子） ・儒家思想の概略を知り、現代に通じるものの見方・考え方について考え、諸家の思想を学ぶ上での足がかりとする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	1回考査	「漢文入門」「借虎威」
		2回考査	「推蔽」「嬰逆鱗」「朝三暮四」唐詩各編
		3回考査	「管鮑之交」「刺客荊軻」「死諸葛走生仲達」
		4回考査	「雑説」「売油翁」
		年度末考査	「論語」「孟子」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、古典への「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の考察・小テスト・課題提出などを活用して総合的に行う。全体の評価は、現代文・古文・漢文を総合したものである。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	○しっかり音読すること。言葉の学習では、音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をつけてくること。調べてもわからない点について、授業で重点的に学習し、授業で学んだことはできる限りその日に復習して覚える。 ○句法・語法のほとんどをこの一年で学習するので、繰り返し復習をする。		

年間授業計画表					
期	月	曜	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	1	漢文入門	8	・なじみのある故事成語・格言を通して、漢文訓読に親しむ。 ・返り点のきまりを理解し、漢文を正しく音読する。 ・訓読のきまり、書き下し文のきまりを理解する。 ・漢和辞典の引き方に慣れ、学習に役立てることができるようになる。 ・漢文の語法・句法や構造を理解する。
			《1回考査》		
	5	2	故事 「借虎威」 「推蔽」 「嬰逆鱗」 「朝三暮四」	12	・繰り返し音読することで、漢文のリズムを味わい、訓読に慣れ親しむ。 ・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・平易な短い文章を読み、内容を理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・現代における故事成語の用い方を理解する。
	6				
期	7	3	唐詩 「絶句」「静夜思」「春望」 等十一篇（絶句・律詩）	12	・近体詩のきまりを理解する。 ・繰り返し音読し、漢詩のリズムを感得する。 ・唐詩の描写を味わい、そこに表れた心情を理解する。
			《2回考査》		
	8 9	4	史伝 「管鮑之交」	6	・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・比較的長い文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 ・文章の内容を、話の展開に即して理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読みとる。
後	10		史伝（続き） 「刺客荊軻」 「死諸葛走生仲達」	12	・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・比較的長い文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 ・文章の内容を、話の展開に即して理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読みとる。
			《3回考査》		
	11 12	5	文章 「雑説」 「売油翁」	16	・適切な速度で、正しく訓読できるようにする。 ・比較的長い文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 ・文章の内容を、話の展開に即して理解する。 ・漢文の語法、句法を理解する。 ・話の展開を把握し、筆者の思いを読み取る。
			《4回考査》		
期	1 2 3	6	思想 「論語」 「孟子」	12	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・漢文特有の語法や句法に留意しながら、内容を把握する。 ・諸子百家が現れた時代背景を確認する。 ・儒家思想の概略を知り、現代に通じるものの見方・考え方について考え、諸家の思想を学ぶ上での足がかりとする。
			《年度末考査》		
			総 時 間 数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	世 界 史 A	2	普通科・理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一 斉 授 業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	「世界史A 新訂版」（実教出版）		
教科書以外の教材（発行所）	世界史A新訂版演習ノート（実教出版）	アカデミア世界史（浜島書店）	

目 標	近現代を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連づけながら理解させ、また人類の出現、農耕の開始以降、人類が手にしていった文明世界への道程、この時点以来の今日までに人類に与えられた諸課題を多角的に考察させることにより、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学 習 の ね ら い	1 各地域の諸文明と交流 人類の出現、農耕の始まりなどが、渾然一体となつてはぐくみだしたユーラシア世界を中心に形成されてきた諸地域世界の特質を、各地域世界の風土・民族・宗教などに着目させながら、総合的な観点の中に把握させてゆく。 2 結びつく世界と日本（一体化する世界） 16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解させる。その際、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目させる。 3 地球社会と日本 地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について考察させる。その際、世界の動向と日本とのかわりに着目させる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書、授業・課題プリント、資料集などをもとに諸観点から出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	ユーラシアの諸文明と交流
		第2回考査	東西世界の交流と諸地域、一体化する世界、
		第3回考査	アジアの繁栄、イスラーム世界の拡大、ヨーロッパと大航海時代、大航海時代と近代世界の確立へ
		第4回考査	帝国主義の時代展開、20世紀の特質、二つの世界大戦の前後の時代、民主主義の新展開とファシズムの時代、
評 価 の 観 点 ・ 評 価 の 方 法	学年末考査		
	冷戦から共存へ、民族の解放と独立、東西問題の変遷とポスト冷戦、20世紀から21世紀へ		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	○評価の観点は、関心・意欲・態度、思考・判断、資料活用、技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的評価は、定期考査に加え、授業での考察・発表、授業ノートやプリントの確認、課題の提出などをもとに総合的に行う。 ○年間の評価には、長期休業中の課題追究学習への取り組みも加える。		
	1年次に全員必修で「世界史A」を学ぶ。学習は①人類の出現、農耕の開始から始まるユーラシア世界の展開の学びと、②世界がより一体化していった帝国主義以降の世界と現代世界までへの学びをそれぞれを1つの区切りと位置づけて学んでゆく。①と②を「現代世界の成り立ち」に迫る学びのための両輪として、今の世界までへの道程を1年かけて展望していつてみよう。この学びをベースにさらに、2・3年次では「世界史B」を選択することもできる。「世界史A」は人類の出現と農耕開始以降の古代を概観したあとは、近・現代を中心に学んでゆき、現代世界が抱える諸課題の解決法を探ってゆくためのものである。中学校の歴史は、ほとんどが世界の歴史であり、高校で初めていくつかの各時代のピリオドごとの中心点を内容にきいて掘り下げて学習することになる。学習のポイント、膨大な量の知識を丸暗記するのではなく、“なぜか”という疑問を発しながら、諸事件・諸人物を歴史の流れの中に位置づけていくようにすることがたいせつである。 どの教科目でもそうだが学習の充実が何よりたいせつであるので、そのためには予習が欠かせない。授業日の前日は、1回は次の範囲の教科書の内容に目を通してゆこう。理解度が深まってゆくだろう。授業では、PCなどのプレゼンテーションの示す事例、教科書の内容などの説明を集中して聞き、地図確認作業やノート代替の授業プリントの整理にしっかりと取り組もう。だされる授業課題などは着実にこなして提出しよう。1年が経過する頃には人類史的歴史課題について自分で何かを見定め、解決への糸口へのアプローチがおぼろげながらでもみえてゆくはずだ。		

年 間 授 業 計 画 表 世界史A			
学期	月	学 習 内 容	時数
学 習 の ボ イ ン ト			
前	4	第1部ユーラシア諸文明と交流 序章 文明の始まり	6
		第1章 ユーラシア諸文明の特質 1 西アジア世界・イスラム世界 2 ヨーロッパ世界	4
	5	3 南アジア・東南アジア世界 4 東アジア世界・内陸アジア世界	
		第2章 ユーラシアの交流	1
期	6	【第1回定期考査】 第2部結びつく世界と日本 第3章 一体化に向かう世界 1 ルネサンスと宗教改革 2 ヨーロッパの主権国家体制 3 大航海時代	4
○大航海時代のヨーロッパ人の海外進出と諸地域の交流を学習し、16世紀の世界の一体化への動きを理解する。			

7	【第2回定期考査】		
	第4章 アジアの繁栄と世界 1 アジアの繁栄 明・清時代の東アジアと東南アジア	5	
	2 イスラーム世界の再編成 オスマン帝国の繁栄	4	○明・清時代の中国の発展を学び、周辺地域の動向を把握する。 ○イスラーム専制王朝の変遷と特色を理解する。 ○17～18世紀のヨーロッパにおける主権国家体制の成立を理解する。 ○ヨーロッパ諸国の世界進出をおおまかに把握し、世界の一体化がヨーロッパを中心に始まったことを理解する。
	9 第3部 近代のヨーロッパ・アメリカと世界の変動		
10	第5章 19世紀の世界の一体化と日本 1 イギリス産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命 4 ウィーン体制とその崩壊 5 ヨーロッパ国民国家の発展 6 アジア・アフリカ・アメリカ大陸 7 東アジアの変容と日本の近代化	10	○科学革命と啓蒙思想の発展が変革に与えた影響を学ぶ。 「クロスカリキュラム」（サイエンスタイム）として実施 ○産業革命の背景・展開・影響について、また、アメリカ独立革命の背景・展開について理解する。 「クロスカリキュラム」（サイエンスタイム）として実施 ○フランス革命からナポレオン時代、続く19世紀前半のヨーロッパ社会について把握する。 ○18世紀後期以降の諸革命と市民社会、国民国家形成の過程を理解する。 ○19世紀後半の欧米諸国で国民統合がすすみ、市民社会が形成されたことを学ぶ。 ○ラテンアメリカ諸国の政治や社会の特色をその独立過程から考察する。
	【第3回定期考査】		
	第4部 地球社会と日本		
	第6章 二つの世界大戦 1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦	4	○ヨーロッパの進出による世界の一体化がアジアの従属化や変革をもたらすようになっていったことを理解する。 ○国主義時代の社会的特色を把握し、アジア・アフリカなど地球規模で植民地化が進行していったことを学ぶ。 ○列強により植民地とされたアジア諸地域の民族運動を理解する。 ○20世紀の社会的特色を概観し、文化や国民のあり方について考える。 ○第一次世界大戦によってもたらされた影響を理解する。 ○第一次世界大戦後のアジアの民族運動の高揚を把握する。 「クロスカリキュラム」（サイエンスタイム）として実施 ○ファシズム台頭の背景と展開を学ぶ。 ○第二次世界大戦の背景と展開を把握し、その意義を理解する。
11	【第4回定期考査】		
	第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊	15	○冷戦構造が形成されていった情勢を把握し、アジア・アフリカ諸国の台頭を理解する。 ○米ソの動揺によって冷戦構造が変容していったことを学ぶ。
	第8章 現代の世界 1 統合へ向かうヨーロッパ 2 アメリカ・ラテンアメリカの動向 3 西アジア・アフリカの混迷 4 南アジア・東南アジア・オセアニアの動き 5 大国化する中国と東アジアの変動	12	○1970年代以降、世界経済の構造的変容によって、国際関係が大きく変化していったことを理解する。 ○諸地域の再編成と固有の問題について考える。 ○現代の諸問題について、主題を決めて問題を追究する。 「クロスカリキュラム」（サイエンスタイム）として実施
	終章 持続可能な世界を目指して 1 巨大技術と人間 2 人が人らしく生きるために 3 環境問題と私たち 4 なお続く紛争	2	
後	【学年末考査】		
	総 時 間 数		78

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	科	履修年次
公民	現代社会		2	普通科	1
履修形態		授業形態	指導者名		
全		一斉授業	地歴公民担当者		
教科書（発行所）		『高等学校現代社会』（第一学習社）			
教科書以外の教材（発行所）		『フォーラム現代社会2018』（とうほう） 『改訂版 現代社会ノート学習事項の整理と問題』（第一学習社）			
目 標		人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
学習のねらい		現代社会について多様な角度から理解させるとともに、青年期の意義、経済活動の在り方、政治参加、民主政治の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割などについて自己とのかかわりに着目して考える。			
定期考査		出題方針	教科書の内容を中心に準拠ノート、資料集などから出題する。		
		第1回考査	現代に生きる青年・地球環境問題		
		第2回考査	資源エネルギー問題・生命倫理・高度情報社会		
		第3回考査	個人の尊重と法の支配・現代の民主政治		
		第4回考査	国際政治・現代の経済生活		
		年度末考査	国際経済・現代に生きる倫理・ケーススタディ		
評価の観点・ 評価の方法		○評価の観点は、現代社会の諸問題への関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査に加え、授業中の作業・演習で考察し、まとめた提出プリント、休業時や週末課題などを適切に活用して総合的に行う。 知識・理解を7割から8割。授業中休業中などの課題提出・授業中の小テストなどを2割から3割。それぞれのトータルで最終評価を構想中。			
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）		新聞・ニュース報道・インターネット等により現代の社会に関する必要な情報、正確な情報を多角的に収集・整理しよう。そして、現代社会が抱える諸問題を公正な立場から分析・理解しよう。さらに、現代社会を成り立たせている過去の歴史や文化について考察してみよう。 予習・復習は教科書準拠の「新課程用現代社会ノート学習事項の整理と問題」や資料集「フォーラム現代社会2017」なども利用すること。			

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	4	第2編	現代社会と人間としてのあり方生き方		
	5		1章 現代に生きる青年	2	・人生における青年期のもつ意味
	6		1. 青年期の意義と自己形成の課題	3	・防衛機制をはじめ青年期の心理
	6		2. 現代社会における青年の生き方	2	・伝統や文化と自らの行動様式や考え方
			3. 伝統や文化と私たちの生活	1	
			《第1回考査》		

期	7	第1編	私たちの生きる社会 1章 地球環境問題 2章 資源・エネルギー問題 3章 科学技術の発達と生命倫理 4章 高度情報社会と私たちの生活 《第2回考査》 * 地球環境問題、資源・エネルギー問題、科学技術の発達と生命倫理は、「クロスカリキュラム」（サイエンスタイム）として実施する	4 3 3 2 1	・国連や国内外の温暖化対策 ・資源・エネルギーの有限性と対策 ・ゴミ問題とリサイクル、3R ・i p s 細胞や遺伝子医療の発展と尊厳 死・臓器移植の持つ意味、生命倫理 ・情報の活用と諸課題
	9	第2編	2章 個人の尊重と法の支配 1. 民主政治における個人と国家 2. 基本的人権と法の支配 3. 世界のおもな政治体制 3章 現代の民主政治と政治参加の意義 1. 日本国憲法の基本原理 2. 平和主義と安全保障 3. 基本的人権の保障と新しい人権	3 3 3 3 3 3	・社会契約説 ・基本的人権の保障と法の支配の意義 ・おもな政治体制と民主政治の実現 ・憲法成立過程と基本原理 ・平和主義と安全保障の意義 ・新しい人権とは何か
	10	第2編	4. 国民主権と議会制民主主義 など 《第3回考査》	3 1	・国会の地位と権限
	11	第2編	4章 国際政治の動向と日本の役割 1. 国家主権と国際法 2. 国際連合の役割 3. 今日の国際社会 4. 核兵器の廃絶と国際平和 5. 国境と領土問題など 5章 現代の経済社会と私たちの生活 1. 経済社会と経済体制 2. 現代の企業 3. 市場経済のしくみ 4. 経済成長と景気変動 5. 政府の経済的役割と租税の意義 6. 金融機関のはたらき 7. 戦後の日本経済の動き 8. 産業構造の変化 9. 雇用と労働問題など 《第4回考査》	1 1 2 1 1 1 1 2 1 3 1	・国際法の意義と役割 ・勢力均衡と集団安全保障体制 ・戦後の国際社会と冷戦終結前後の社会 ・核兵器の拡散と核軍縮、核廃絶への道 ・国境や領土問題、日本の領土問題 ・資本主義経済、社会主義経済の特徴 ・企業・家計・政府の活動 ・市場経済のしくみ、価格機構 ・景気変動の特徴、国民所得 ・財政政策の役割、租税の意義 ・金融機関（日銀や市中銀行）の役割 ・高度成長やバブル経済前後の動き ・産業構造の高度化 ・雇用事情の変化と労働条件
後	12	第2編	6章 国際経済の動向と日本の役割 1. 国際経済のしくみと貿易の拡大 2. 国際経済の動向 3. 発展途上国の経済と南北問題 4. 国際協調と日本の役割 7章 現代に生きる倫理 1. 豊かな人生を求めて 2. 日本の伝統的なものの考え方 3. 西洋の自然観と人間観 4. 私たちの課題	2 2 1 1 1 1 1 1 1	・円高、円安のしくみと影響 ・日本の貿易や貿易摩擦 ・南北問題 ・地域的経済統合、FTA、EPA ・哲学や宗教の役割 ・生活の中の仏教や西洋思想 ・科学的合理的なものの考え方 ・人間の尊厳
期	1	第3編	ともに生きる社会をめざして ケーススタディ① 税と社会 など 《年度末考査》	2 1	・資料や統計などを活用して多面的に考察、発表、表現
	2	第3編			
			総 時 間 数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	数 学 I (S 数学 I)	2	普通科	1
履修形態		授 業 形 態		指 導 者 名
全		コース別選択授業 (S)		数学科

教科書（発行所）	高等学校 数学 I（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学 I + A（数研出版） 4 プロセス 数学 I 完成ノート（数研出版）

目 標	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解し，基礎的な知識，技能を習得する。また，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようになるとともに，それらを活用する態度を養う。		
学習のねらい	第 1 章 数と式 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また，式を多面的にみたり処理したりするとともに，一次不等式を事象の考察に活用できるようになる。 第 2 章 2 次関数 二次関数とそのグラフについて理解し，二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようになる。 第 3 章 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようになる。 第 4 章 データの分析 統計の基本的な考え方を理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し，傾向を把握できるようになる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に，問題集，参考書，教材プリントなどから出題する。α，β の 2 種類の考查を行う。	
	範 囲	第 1 回考查	第 1 章 数と式（第 1・2 節）
		第 2 回考查	第 1 章 数と式（第 3・4 節） 第 2 章 2 次関数（第 1 節）
		第 3 回考查	第 2 章 2 次関数（第 2・3 節）
		第 4 回考查	第 3 章 図形と計量
		学年末考查	第 4 章 データの分析
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，数学への関心，意欲・態度，数学的な見方や考え方，数学的な表現・処理，知識・理解の 4 項目とする。 ○具体的な評価は，定期考查を中心に，授業中での考察，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノート のとり方など)	予習→授業→復習のリズムを身につければ，高校生活は楽しくなる。予習の段階で，自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で，授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして，理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	4		第 1 章 数と式 1. 式の計算 1 整式の加法と減法 2 整式の除法 3 因数分解 2. 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 《第 1 回考查》 3. 1 次不等式 6 不等式の性質 7 1 次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 4. 集合と命題 9 集合 10 命題と条件 11 命題とその逆・対偶・裏 12 命題と証明 課題学習	8	特定の文字に着目することの重要性を認識し，式についての見方を豊かにする。また，整式の四則計算や因数分解ができるようにする。
	5			6	実数について理解し，絶対値記号を含む計算ができるようにする。また，平方根を含む式が確実にできるようにする。
	6			6	不等式の意味を理解し，その性質を使いこなせるようにする。また，1 次不等式を解くことができるようにする。
期				6	集合と命題に関する基本的な概念を理解し，それを事象の考察に活用できるようにする。
	7		第 2 章 2 次関数 1. 2 次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2 次関数のグラフ 《第 2 回考查》 2. 2 次関数の値の変化 3 2 次関数の最大・最小 4 2 次関数の決定 3. 2 次方程式と 2 次不等式 5 2 次方程式 6 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 7 2 次不等式 課題学習 《第 3 回考查》 第 3 章 図形と計量 1. 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 2. 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 課題学習 《第 4 回考查》 第 4 章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 6 表計算ソフトによるデータの分析 課題学習	6	事象から 2 次関数であらわされる関係を見出す。また，二次関数のグラフの特徴について理解することができる。
	8			8	2 次関数の値の変化について，グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすることができる。
	9			10	2 次方程式の解と 2 次関数のグラフとの関係について理解するとともに，数量の関係を 2 次不等式で表し 2 次関数のグラフを利用してその解を求めることができるようにする。
	10			6	三角比の定義を理解し，相互関係を活用できるようにする。鈍角の三角比の定義を理解し，相互関係を活用できるようにする。
	11			12	正弦定理，余弦定理を理解し，既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができるようにする。また，三角形の面積の公式を理解し，活用できるようにする。
	12			10	三角比を平面図形や空間図形の考察に活用することができる。
	1			10	四分位偏差，分散及び標準偏差などの意味について理解し，それらを用いてデータの傾向を把握し，説明することができるようにする。
	2				散布図や相関係数の意味を理解し，それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明することができるようにする。
			《学年末考查》		
総 時 間 数				78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	数 学 I (U 数学 I)	2	普通科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	コース別選択授業 (U)	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学 I（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学 I + A（数研出版） 4 プロセス 数学 I 完成ノート（数研出版）

目 標	数と式、図形と計量、データの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。		
学習のねらい	第3章 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようになる。 第4章 データの分析 統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようになる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、参考書、教材プリントなどから出題する。 α 、 β の2種類の考查を行う。	
	範 囲	第1回考查	第3章 図形と計量（第1節）
		第2回考查	第3章 図形と計量（第2節）
		第3回考查	第4章 データの分析
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查を中心に、授業中での考察、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート のとり方など)	予習→授業→復習のリズムを身につければ、高校生活は楽しくなる。予習の段階で、自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で、授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして、理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	4		第3章 図形と計量 1. 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張	2 2	三角比の定義を理解し、相互関係を活用できるようにする。 鈍角の三角比の定義を理解し、相互関係を活用できるようにする。
	5		《第1回考查》		
	6		2. 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 課題学習	2 6	正弦定理、余弦定理を理解し、既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができるようにする。また、三角形の面積の公式を理解し、活用できるようにする。 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用することができる。
期	7		《第2回考查》		
	8		第4章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 6 表計算ソフトによるデータの分析 課題学習	3 0	四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明することができるようにする。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明することができるようにする。
	9				
後	10		《第3回考查》		
期					
			総 時 間 数	7 8	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	科	履修年次
数 学	理数数学Ⅰ (S 数学Ⅰ)		5 (2)	理数科	1
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名		
全		コース別選択授業 (S)	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学Ⅰ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A（数研出版） 4プロセス 数学Ⅰ 完成ノート（数研出版）

目 標	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解し，基礎的な知識，技能を習得する。また，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようになるとともに，それらを活用する態度を養う。		
学習のねらい	第1章 数と式 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また，式を多面的にみたり処理したりするとともに，一次不等式を事象の考察に活用できるようになる。 第2章 2次関数 二次関数とそのグラフについて理解し，二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようになる。 第3章 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。 第4章 データの分析 統計の基本的な考え方を理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し，傾向を把握できるようになる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に，問題集，参考書，教材プリントなどから出題する。 α ， β の2種類の考查を行う。	
	範 囲	第1回考查	第1章 数と式（第1・2節）
		第2回考查	第1章 数と式（第3・4節） 第2章 2次関数（第1節）
		第3回考查	第2章 2次関数（第2・3節）
		第4回考查	第3章 図形と計量
		学年末考查	第4章 データの分析
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，数学への関心，意欲・態度，数学的な見方や考え方，数学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は，定期考查を中心に，授業中での考察，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイ ス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノー トのとり方など)	予習→授業→復習のリズムを身につければ，高校生活は楽しくなる。予習の段階で，自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で，授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして，理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	4		第1章 数と式 1. 式の計算 1 整式の加法と減法 2 整式の除法 3 因数分解 2. 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 《第1回考查》	8	特定の文字に着目することの重要性を認識し，式についての見方を豊かにする。また，整式の四則計算や因数分解ができるようにする。
	5		3. 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 4. 集合と命題 9 集合 10 命題と条件 11 命題とその逆・対偶・裏 12 命題と証明 課題学習	6 6 6	実数について理解し，絶対値記号を含む計算ができるようにする。また，平方根を含む式が確実にできるようにする。 不等式の意味を理解し，その性質を使いこなせるようにする。また，1次不等式を解くことができるようにする。
期	6		第2章 2次関数 1. 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 《第2回考查》 2. 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 3. 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式 課題学習 《第3回考查》	6 8 10	集合と命題に関する基本的な概念を理解し，それを事象の考察に活用できるようにする。 事象から2次関数であらわされる関係を見出す。また，二次関数のグラフの特徴について理解することができる。 2次関数の値の変化について，グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすることができる。 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに，数量の関係を2次不等式で表し2次関数のグラフを利用してその解を求めることができるようにする。
	7		第3章 図形と計量 1. 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 2. 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 課題学習 《第4回考查》	6 12	三角比の定義を理解し，相互関係を活用できるようにする。 鈍角の三角比の定義を理解し，相互関係を活用できるようにする。 正弦定理，余弦定理を理解し，既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができるようにする。また，三角形の面積の公式を理解し，活用できるようにする。
	8		第4章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 6 表計算ソフトによるデータの分析 《学年末考查》	10	三角比を平面図形や空間図形の考察に活用することができる。 四分位偏差，分散及び標準偏差などの意味について理解し，それらを用いてデータの傾向を把握し，説明することができるようにする。
	9				
	10				
	11				
	12				
	1				
	2				
			総 時 間 数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	理数数学Ⅰ (U数学Ⅰ)	5 (2)	理数科	1
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名	
全		コース別選択授業 (U)	数学科	

教科書（発行所）	高等学校 数学Ⅰ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A（数研出版） 4プロセス 数学Ⅰ 完成ノート（数研出版）

目 標	数と式、図形と計量、データの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。		
学習のねらい	第3章 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようになる。 第4章 データの分析 統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようになる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、参考書、教材プリントなどから出題する。 α 、 β の2種類の考查を行う。	
	範 囲	第1回考查	第3章 図形と計量（第1節）
		第2回考查	第3章 図形と計量（第2節）
		第3回考查	第4章 データの分析
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查を中心に、授業中での考察、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート のとり方など)	予習→授業→復習のリズムを身につければ、高校生活は楽しくなる。予習の段階で、自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で、授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして、理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期 後 期	4		第3章 図形と計量 1. 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張	2 2	三角比の定義を理解し、相互関係を活用できるようにする。 鈍角の三角比の定義を理解し、相互関係を活用できるようにする。
	5		《第1回考查》 2. 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 課題学習	2 6	正弦定理、余弦定理を理解し、既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができるようにする。また、三角形の面積の公式を理解し、活用できるようにする。 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用することができる。
	6				
	7		《第2回考查》 第4章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 6 表計算ソフトによるデータの分析 課題学習	3 0	四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明することができるようにする。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明することができるようにする。
	8				
	9				
	10		《第3回考查》		
			総 時 間 数	7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	数 学 II（U 数学 II）	1	普通科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	コース別選択授業（U）	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学 II（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学 II＋B（数研出版） 4 プロセス 数学 II 完成ノート（数研出版）

目 標	式と証明，複素数と方程式，図形と方程式，三角関数について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用できるようになる。		
学習のねらい	第 1 章 式と証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようになる。 第 2 章 複素数と方程式 方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようになる。 第 3 章 図形と方程式 座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようになる。 第 4 章 三角関数 三角関数について理解し，関数についての理解を深め，それらを具体的な事象の考察に活用できるようになる。		
定期考查	出題方針	教科書の内容を中心に，問題集，参考書，教材プリントなどから出題する。 α ， β の2種類の考查を行う。	
	範囲（予定）	第 3 回考查	第 1 章 式と証明
		第 4 回考查	第 2 章 複素数と方程式 第 3 章 第 1 節 点と直線
		年度末考查	第 3 章 第 2 節 円 第 3 節 軌跡と領域 第 4 章 三角関数
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は，数学への関心，意欲・態度，数学的な見方や考え方，数学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は，定期考查を中心に，授業の中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	予習→授業→復習のリズムを身につければ，高校生活は楽しくなる。予習の段階で，自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で，授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして，理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	8		第 1 章 式と証明 1. 式と計算 1 3 次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 2. 等式不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明 課題学習 《第 3 回考查》	9	三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し，それらを用いて式の展開や因数分解をする。また，整式の除法や分数式の四則計算について理解し，簡単な場合について計算をする。
	9				
	10				等式や不等式が成り立つことを，それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明する。
後 期			第 2 章 複素数と方程式 1. 複素数と 2 次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2 次方程式の解 3 解と係数の関係 2. 高次方程式 4 剰余の定理と因数分解 5 高次方程式 課題学習	7	数を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の四則計算をする。また，二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解できるようにする。
	11				因数定理について理解し，簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めることができるようにする。
	12		第 3 章 図形と方程式 1. 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2 直線の関係 《第 4 回考查》 2. 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2 つの円 3. 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域 課題学習	1 2	座標を用いて，平面上の線分を内分する点，外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。また，座標平面上の直線を方程式で表し，それを二直線の位置関係などの考察に活用すること。
	1				座標平面上の円を方程式で表し，それを円と直線の位置関係などの考察に活用する。
	2		第 4 章 三角関数 1. 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数の応用 2. 加法定理 6 三角関数の加法定理 7 加法定理の応用 課題学習 《年度末考查》	1 1	軌跡について理解し，簡単な場合について軌跡を求める。また，簡単な場合について，不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりする。
					角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。 三角関数とそのグラフの特徴について理解する。 三角関数について，相互関係などの基本的な性質を理解する。 三角関数の加法定理を理解し，それを用いて2倍角の公式を導く。
総 時 間 数				3 9	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	理数数学Ⅰ（U 数学Ⅱ）	5 （1）	理数科	1
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名	
全		コース別選択授業（U）	数学科	

教科書（発行所）	高等学校 数学Ⅱ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅱ＋B（数研出版） 4プロセス 数学Ⅱ 完成ノート（数研出版）

目 標	式と証明，複素数と方程式，図形と方程式，三角関数について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用できるようになる。		
学習のねらい	第1章 式と証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようになる。 第2章 複素数と方程式 方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようになる。 第3章 図形と方程式 座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようになる。 第4章 三角関数 三角関数について理解し，関数についての理解を深め，それらを具体的な事象の考察に活用できるようになる。		
	出題方針	教科書の内容を中心に，問題集，参考書，教材プリントなどから出題する。 α ， β の2種類の考查を行う。	
	範囲 （予定）	第3回考查	第1章 式と証明
		第4回考查	第2章 複素数と方程式 第3章 第1節 点と直線
		年度末考查	第3章 第2節 円 第3節 軌跡と領域 第4章 三角関数
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，数学への関心，意欲・態度，数学的な見方や考え方，数学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は，定期考查を中心に，授業中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	予習→授業→復習のリズムを身につければ，高校生活は楽しくなる。予習の段階で，自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で，授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして，理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	8		第1章 式と証明 1. 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 2. 等式不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明 課題学習 《第3回考查》	9	三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し，それらを用いて式の展開や因数分解をする。また，整式の除法や分数式の四則計算について理解し，簡単な場合について計算をする。
	9		第2章 複素数と方程式 1. 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 2. 高次方程式 4 剰余の定理と因数分解 5 高次方程式 課題学習	7	数を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の四則計算をする。また，二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解できるようにする。
	10		第3章 図形と方程式 1. 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 《第4回考查》 2. 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 3. 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域 課題学習	1 2	因数定理について理解し，簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めることができるようにする。
後 期	11		第4章 三角関数 1. 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数の応用 2. 加法定理 6 三角関数の加法定理 7 加法定理の応用 課題学習 《年度末考查》	1 1	座標を用いて，平面上の線分を内分する点，外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。また，座標平面上の直線を方程式で表し，それを二直線の位置関係などの考察に活用すること。
	12				座標平面上の円を方程式で表し，それを円と直線の位置関係などの考察に活用する。
	1				軌跡について理解し，簡単な場合について軌跡を求める。また，簡単な場合について，不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりする。
総 時 間 数				3 9	角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。 三角関数とそのグラフの特徴について理解する。 三角関数について，相互関係などの基本的な性質を理解する。 三角関数の加法定理を理解し，それを用いて2倍角の公式を導く。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	数 学 A (L 数学 A)	2	普通科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	コース別選択授業 (L)	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学A（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A（数研出版） 4 プロセス 数学A 完成ノート（数研出版）

目 標	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習のねらい	第1章 場合の数と確率 図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せなどの考え方をうまく活用して個数の処理ができるようにする。 確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し処理できるようにする。 第2章 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第3章 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、参考書、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	第1章 場合の数と確率 第1節1～3
		第2回考査	第1章 場合の数と確率 第1節4、第2節5～7
		第3回考査	第1章 場合の数と確率第2節8 第3章 整数の性質
		第4回考査	第2章 図形の性質
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の観察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からの アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノートの 取り方など)	予習→授業→復習のリズムを早く身に付ければ、高校生活は楽くなる。 予習の段階で、自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極める事が大切で、授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして、理解したことを、復習することですっかりと定着させてほしい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		第1章 場合の数と確率 1. 場合の数 1 集合の要素の個数 2 集合の数 3 順列	1 2	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求める。
	5		《第1回考査》 4 組合せ 2. 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立試行と確率	1 4	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求める。 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求める。条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求める。 また、これらを事象の考察に活用する。
	6				
	7		《第2回考査》 8 条件付き確率 課題学習 第3章 整数の性質 1. 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最小公倍数 3 整数の割り算と商・余り 2. ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式	8	素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現する。
	8				
	9			1 0	整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求める。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求める。
			3. 整数の性質の利用 6 分数と小数 7 n進法 課題学習 《第3回考査》	1 0	二進法などの仕組みや分数が有限小数又は循環小数で表される仕組みを理解し、整数の性質を事象の考察に活用する。
	10				
	11		第2章 図形の性質 1. 平面図形 1 三角形の辺と比 2 三角形の外心、内心、重心 3 チェバの定理、メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 2. 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体 課題学習 《第4回考査》	1 6	円および三角形に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明する。 基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用する。
	12			8	空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。また、多面体などに関する基本的な性質について理解し、それらを事象の考察に活用する。
後 期	1				
総 時 間 数				7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	数 学 A (R 数学 A)	2	普通科	1
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名	
全		コース別選択授業 (R)	数学科	

教科書（発行所）	高等学校 数学A（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A（数研出版） 4プロセス 数学A 完成ノート（数研出版）

目 標	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習のねらい	第1章 場合の数と確率 図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せなどの考え方をうまく活用して個数の処理ができるようにする。 確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し処理できるようにする。 第2章 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第3章 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、参考書、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	第1章 場合の数と確率 第1節1～3
		第2回考査	第1章 場合の数と確率 第1節4、第2節5～7
		第3回考査	第1章 場合の数と確率第2節8 第3章 整数の性質
		第4回考査	第2章 図形の性質
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の観察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からの アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	予習→授業→復習のリズムを早く身に付ければ、高校生活は楽くなる。 予習の段階で、自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極める事が大切で、授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして、理解したことを、復習することですっかりと定着させてほしい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	5	第1章 場合の数と確率 1. 場合の数 1 集合の要素の個数 2 集合の数 3 順列	1 2	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求める。
	5		《第1回考査》 4 組合せ 2. 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立試行と確率	1 4	
	6		《第2回考査》 8 条件付き確率 課題学習	8	素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現する。
	7				
	8		2. ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式	1 0	整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求める。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求める。
	9				
	10		3. 整数の性質の利用 6 分数と小数 7 n進法 課題学習 《第3回考査》	1 0	二進法などの仕組みや分数が有限小数又は循環小数で表される仕組みを理解し、整数の性質を事象の考察に活用する。
	11		第2章 図形の性質 1. 平面図形 1 三角形の辺と比 2 三角形の外心、内心、重心 3 チェバの定理、メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 2. 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体 課題学習 《第4回考査》	1 6	円および三角形に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明する。基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用する。
12	《第4回考査》	8	空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。また、多面体などに関する基本的な性質について理解し、それらを事象の考察に活用する。		
1					
			総 時 間 数	7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	理数数学Ⅰ （Ⅰ数学A）	5 （2）	理数科	1
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名	
全		コース別選択授業 （Ⅰ）	数学科	

教科書（発行所）	高等学校 数学A（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A（数研出版） 4プロセス 数学A 完成ノート（数研出版）

目 標	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習のねらい	第1章 場合の数と確率 図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せなどの考え方をうまく活用して個数の処理ができるようにする。 確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し処理できるようにする。 第2章 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第3章 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、参考書、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考査	第1章 場合の数と確率 第1節1～3
		第2回考査	第1章 場合の数と確率 第1節4、第2節5～7
		第3回考査	第1章 場合の数と確率第2節8 第3章 整数の性質
		第4回考査	第2章 図形の性質
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の観察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からの アドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	予習→授業→復習のリズムを早く身に付ければ、高校生活は楽しくなる。 予習の段階で、自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極める事が大切で、授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして、理解したことを、復習することですっかりと定着させてほしい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		第1章 場合の数と確率 1. 場合の数 1 集合の要素の個数 2 集合の数 3 順列	1 2	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求める。
	5		《第1回考査》 4 組合せ 2. 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立試行と確率	1 4	
	6		《第2回考査》 8 条件付き確率 課題学習	8	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求める。 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求める。条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求める。 また、これらを事象の考察に活用する。
	7				
	8				
	9		第3章 整数の性質 1. 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最小公倍数 3 整数の割り算と商・余り 2. ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式	1 0	整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求める。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求める。
	10		3. 整数の性質の利用 6 分数と小数 7 n進法 課題学習 《第3回考査》	1 0	
	11		第2章 図形の性質 1. 平面図形 1 三角形の辺と比 2 三角形の外心、内心、重心 3 チェバの定理、メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 2. 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体 課題学習 《第4回考査》	1 6	
	後 期		12		8
1					
総 時 間 数				7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数 学	理数数学Ⅰ （R数学A）	5 （2）	理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	コース別選択授業 （R）	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学A（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A（数研出版） 4プロセス 数学A 完成ノート（数研出版）

目 標	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習のねらい	第1章 場合の数と確率 図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せなどの考え方をうまく活用して個数の処理ができるようにする。 確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し処理できるようにする。 第2章 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第3章 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、参考書、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考査	第1章 場合の数と確率 第1節1～3
		第2回考査	第1章 場合の数と確率 第1節4、第2節5～7
		第3回考査	第1章 場合の数と確率第2節8 第3章 整数の性質
		第4回考査	第2章 図形の性質
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中の観察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からの アドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	予習→授業→復習のリズムを早く身に付ければ、高校生活は楽くなる。 予習の段階で、自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極める事が大切で、授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして、理解したことを、復習することですっかりと定着させてほしい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		第1章 場合の数と確率 1. 場合の数 1 集合の要素の個数 2 集合の数 3 順列	1 2	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求める。
	5		《第1回考査》 4 組合せ 2. 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立試行と確率	1 4	
	6				
	7		《第2回考査》 8 条件付き確率 課題学習 第3章 整数の性質 1. 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最小公倍数 3 整数の割り算と商・余り 2. ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式	8	素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現する。
	8				
	9			1 0	整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求める。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求める。
	10		3. 整数の性質の利用 6 分数と小数 7 n進法 課題学習 《第3回考査》	1 0	二進法などの仕組みや分数が有限小数又は循環小数で表される仕組みを理解し、整数の性質を事象の考察に活用する。
	11		第2章 図形の性質 1. 平面図形 1 三角形の辺と比 2 三角形の外心、内心、重心 3 チェバの定理、メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 2. 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体 課題学習 《第4回考査》	1 6	
後 期	12			8	空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。また、多面体などに関する基本的な性質について理解し、それらを事象の考察に活用する。
	1				
総 時 間 数				7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	数 学 B (S 数学 B)	1	普通科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選択	コース別選択授業 (S)	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学B （数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅱ＋B（数研出版） .4プロセス 数学B 完成ノート（数研出版）

目 標	数列における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		
学習のねらい	第3章 数列 簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に，問題集，参考書，教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	年度末考查	等差数列と等比数列 いろいろな数列
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，数学への関心，意欲・態度，数学的な見方や考え方，数学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は，定期考查を中心に，授業中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からの アドバイス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノート の取り方など)	予習→授業→復習のリズムを身につければ，高校生活は楽しくなる。予習の段階で，自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で，授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして，理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
期	月	単	学 習 内 容	時数	学習のポイント
後	1		3 章 数列 1 節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 問題演習	1 9	ある規則に従って並んでいる数列からその規則を推測できるようにする。 数列についての用語の意味や一般項の概念を習得し，等差数列，等比数列の一般項，和が求められるようにする。
	2		2 節 いろいろな数列 6 和の記号Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和 問題演習 《年度末考查》	2 0	記号Σの意味と性質を理解し，数列の和が求められる。 階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。・階差数列により，一般項を推定したり，一般項を求める。 和の求め方の工夫をして，数列の和が求められる。
期			総 時 間 数	3 9	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	数 学 B (U 数学B)	1	普通科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選択	コース別選択授業 (U)	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学B （数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅱ＋B（数研出版） 4プロセス 数学B 完成ノート（数研出版）

目 標	数列における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		
学習のねらい	第3章 数列 簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に，問題集，参考書，教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第4回考查	等差数列と等比数列 いろいろな数列
		年度末考查	数学的帰納法
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，数学への関心，意欲・態度，数学的な見方や考え方，数学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は，定期考查を中心に，授業の中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からの アドバイス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノート の取り方など)	予習→授業→復習のリズムを身につければ，高校生活は楽しくなる。予習の段階で，自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で，授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして，理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
後 期	10		3章 数列 1節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 問題演習	1 2	ある規則に従って並んでいる数列からその規則を推測できるようにする。 数列についての用語の意味や一般項の概念を習得し，等差数列，等比数列の一般項，和が求められるようにする。
	11				
	12		2節 いろいろな数列 6 和の記号Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和 問題演習 《第4回考查》	1 2	記号Σの意味と性質を理解し，数列の和が求められる。 階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。・階差数列により，一般項を推定したり，一般項を求める。 和の求め方の工夫をして，数列の和が求められる。
	1		3節 数学的帰納法 9 漸化式 10 数学的帰納法 問題演習 課題学習 《年度末考查》	1 5	漸化式の意味を理解し，具体的に項が求められる。 数学的帰納法の考えを理解し，実際にこれを用いて証明ができるようにする。 基本的な問題が解けるようになる。 基本～標準的な問題が解けるようになる。
	2				
総 時 間 数				3 9	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	理数数学特論 (U 数学B)	1	理数科	1
履修形態		授 業 形 態		指 導 者 名
選択		コース別選択授業 (U)		数学科

教科書（発行所）	高等学校 数学B （数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	チャート式 基礎からの数学Ⅱ＋B（数研出版） 4プロセス 数学B 完成ノート（数研出版）

目 標	数列における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		
学習のねらい	第3章 数列 簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、参考書、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第4回考查	等差数列と等比数列 いろいろな数列
		年度末考查	数学的帰納法
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からの アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	予習→授業→復習のリズムを身につければ、高校生活は楽しくなる。予習の段階で、自分で「解る」部分と「解らない」部分を見極めることが大切で、授業でその不明な部分を解決して欲しい。そして、理解したことを復習することで定着させて欲しい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
後 期	10		3章 数列 1節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 問題演習	1 2	ある規則に従って並んでいる数列からその規則を推測できるようにする。 数列についての用語の意味や一般項の概念を習得し、等差数列、等比数列の一般項、和が求められるようにする。
	11				
	12		2節 いろいろな数列 6 和の記号Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和 問題演習	1 2	記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。・階差数列により、一般項を推定したり、一般項を求める。 和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。
	1		《第4回考查》 3節 数学的帰納法 9 漸化式 10 数学的帰納法 問題演習 課題学習	1 5	漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。 数学的帰納法の考えを理解し、実際にこれを用いて証明ができるようにする。 基本的な問題が解けるようになる。 基本～標準的な問題が解けるようになる。
	2		《年度末考查》		
総 時 間 数				3 9	

教科名	科目名	単位数	科	履修年次
理科	物理基礎	1	普通科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一 斉 授 業	理科（物理）		

教科書（発行所）	物理基礎（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リード Light ノート（数研出版）

目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物理の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理的に探求する能力や態度を養うとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学習のねらい	1：速度 今までなじんできたスカラー量と、ベクトル量の違いを理解する。 2：加速度 単位時間当たりの速度の変化という新しい量を理解する 3：力 力の定義を理解させる。運動の定義を理解する。 4：運動の法則 力と加速度、そして運動の関係を理解させ、運動方程式を使えるようにする。		
定期考查	出題方針	教科書，リード Light ノートの問題を中心に出題する。	
	範囲 (予定)	2 回 考 査	速度 加速度 落体の運動
		3 回 考 査	力とそのはたらき，力のつりあい 運動の法則，
		4 回 考 査	摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力，
		認定考查	仕事と力学的エネルギー
評価の観点 評価の方法	◎評価の観点は，科学への関心，意欲・態度，科学的な見方や考え方，科学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は，定期考查に加えて実験レポート，提出課題等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス	高校生になり，本格的な科学への第一歩の時期です。できない，わからないは当たり前です。授業を理解することは大事ですが，この一年間でわからないことへの自分なりの対処の仕方を身につけましょう。どんな些細なことでもかまいません，わからないこと，疑問に思ったことがあれば先生に質問してみてください。		

年 間 授 業 計 画					
学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント	
前 期		第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	5 4 4	・速度の合成・分解，相対速度の作図，計算を理解させる。 ・等加速度直線運動の概念を理解させる。	
	4	1.速度			
	5	2.加速度			
	6	3.落体の運動			
	7	第2回考查			
後 期	9	第2章 運動の法則	8	・力の種類とそのはたらき方(作用点・方向)を理解させる。	
	10	1.力とそのはたらき 2.力のつりあい 3.運動の法則	8	・物体は接触しているほかの物体から力を受けることを踏まえ，身近な事例から作用・反作用の法則，力のつりあい，合成・分解を理解する。	
	11	第3回考查			
	12	4.摩擦を受ける運動 5.液体や気体から受ける力			
			第4回考查		
	1	第3章 仕事と力学的エネルギー	10	・物体のもつ運動エネルギーと物体にする仕事との関係を理解する。	
	2	1.仕事 2.運動エネルギー 3.位置エネルギー 4.力学的エネルギーの保存	39	・広義のエネルギー保存について，発展的に学習することを通して，エネルギーが有限であることについての理解を深めさせる。	
		単位認定考查			
			総 時 間 数		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	化学基礎（化学基礎）	1	普通科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
必修修	一斉授業	理科（化学科）		

教科書（発行所）	改訂版 化学基礎（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	四訂版 リードα化学基礎（数研出版）

目 標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な自然観を育成する。		
学習のねらい	1. 物質の構成と化学結合 化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身に付ける。また、物質の構成粒子を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 2. 物質の変化 物質量と質量、気体の体積、粒子数の関係が理解できる。また、化学変化を化学反応式で表すことができ、化学反応式の量的関係が理解できる。		
定期考査	出題方針	教科書、リードα化学基礎及び授業プリントを中心に出题する。	
	範囲 (予定)	1回考査	(実施しない)
		2回考査	物質の種類と性質～電子配置と周期表
		3回考査	イオン結合～共有結合
		4回考査	金属結合～原子量・分子量・式量
		年度末考査	物質量～化学史
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、科学への関心、意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、授業での取り組み、定期考査、提出物（リードα演習ノート、休業中課題等）等により総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	①予習…教科書や授業プリントをもとに、前回の授業の見直しをする。 ②授業中…授業プリントに記入しながら理解する。 ③復習…学習した内容に対応した問題（リードα化学基礎）を解く。 ④考査を受けるまでにしておくこと…リードα化学基礎の問題をすべて解けるように努力をする。 ※実験にあたっては注意をよく聞いて、積極的に活動をするように心がける。		

年間授業計画				
学期	月	単元 学 習 内 容	時数	学習のポイント
前期	4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 ・純物質と混合物 ・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動	5	・混合物から純物質を取り出す方法を理解する。 ・元素と単体の違いを理解する。 ・粒子の熱運動をイメージし、三態変化を理解する。
	5			
	6	第2章 物質の構成粒子 ・原子とその構造 ・イオン ・電子配置と周期表	6	・原子を構成する粒子、同位体について理解する。 ・電子配置を理解し、元素の分類（典型と遷移など）や族の名称、その性質を理解する。
	7	第3章 粒子の結合 ・イオン結合 ・分子と共有結合 ・分子間にはたらく力 ・共有結合結晶	8	・イオンの生成、イオン結合について理解する。また、イオン式を知り、イオンからなる物質を組成式で表せることを理解する。 ・イオン結合でできた物質と人間生活との関連について考える。 ・共有結合の仕組みを知り、分子を電子式や構造式で表すことを理解する。 ・共有結合でできた物質を知り、それらの特徴を分子間力と合わせて理解する。 ・共有結合でできた物質と人間生活との関連について考える。
	8			
	9			
後期	10	(第3章続き) ・金属結合	4	・金属結合の仕組みと、金属結合でできた物質の特徴を理解する。 ・金属結合でできた物質と人間生活との関連について考える。
	11	序章 化学と人間生活 ・人間生活の中の化学 ・化学とその役割	2	・身の回りにある様々な物質と人間生活との関連について考える。
	12			
	1	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質量 ・化学反応式と物質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式と量的関係 ・基本法則に関連した化学史	14	・原子量の基準を知り、原子の相対質量、原子量、分子量、式量の計算方法を理解する。 ・物質量〔mol〕と個数、質量、気体の体積の関係を理解する。 ・質量パーセント濃度、モル濃度の求め方を理解する。 ・化学反応式の書き、反応物や生成物の量的関係を理解する。 ・現代化学の基礎となっている諸法則を理解する。
	2			
		総 時 間 数	39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理数	生物基礎（生物基礎）	1	理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（生物学科）		

教科書（発行所）	改訂生物基礎（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	リード Light ノート（数研出版）

目 標	生物や生物現象についての観察実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を養うとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。また、学習内容について、発展的に知識・理解を深める。		
学習のねらい	1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。		
定 期 考 査	出題方針	教科書及び授業プリントの内容がよく理解できているかどうか反映される問題を出題する。	
	範 囲 (予 定)	第 1 回	
		第 2 回	原核生物と真核生物、酵素の性質、葉緑体・ミトコンドリアの構造とはたらき、現在もみられる細胞内への共生
		第 3 回	ヒトゲノムプロジェクト、DNA と染色体、分裂する細胞、分裂しない細胞、
		第 4 回	DNA の複製、生命現象とタンパク質、翻訳のしくみ
		認 定	細胞の膜のはたらき、血液凝固反応、尿の生成と老廃物の濃縮
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、関心・意欲・態度、思考・判断、実験・観察の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は定期考査を中心にして、授業プリントの提出；実習のレポートを適切に活用して総合的に行う。また、実習においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からの アドバイス (予習・復習 の方法、授業 の受け方、ノ ートの取り 方など)	生物や生物現象に関することについて、まず興味を持つことが大切である。授業ごとに、授業プリントを復習していく習慣をつけることも重要なことである。実験には積極的に取り組み、単に結果を記録するだけではなく、そのような結果になった理由を自分なりに考察していく姿勢が大切である。ノートについてはしっかりメモを取り、見直したときに復習しやすいノートづくりを心がける。		

年 間 授 業 計 画				
学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1「生物の多様性と共通性」 ・多様性と共通性の由来 ・共通性（生物の特徴） ・細胞 〈註〉ウイルスの取り扱い 〈観〉原核生物と真核生物の観察	20	・生物の特徴の1つに挙げられる、多様性と共通性について学ぶ。 ・身のまわりの原核細胞・真核細胞を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。
	5	2「エネルギーと酵素と代謝」 ・生命活動とエネルギー（ATP） ・代謝と酵素 〈観〉酵素のはたらき		・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。 ・ATPと発光物質を組み合わせて、環境の汚染度が測定できることを知る。 ◎酵素の基質特異性や最適温度・最適pHについて学ぶ。
	6	3「光合成と呼吸」 ・光合成 ・呼吸 ・エネルギーの流れ ・細胞内共生 〈註〉葉の構造と葉緑体 〈観〉光のエネルギーを用いて有機物がつくられることの確認 〈観〉葉緑体とミトコンドリア		◎葉緑体にはチラコイドとストロマがあり、それぞれが光合成において重要な反応の場となっていることを知る。 ◎ミトコンドリアにはマトリックスとクリステがあり、それぞれが細胞呼吸において重要な場となっていることを知る。 ・光合成において有機物であるデンプンが合成されることを、実験を通して学ぶ。 ・単細胞生物において、細胞内への共生の初期段階の観察ができることを知る。 ・葉緑体とミトコンドリアの観察を通じて、仮説の立て方・検証のための観察実験の計画と実施方法・考察の方法など探究活動の手順について学ぶ。
	7	第2章 遺伝子とそのはたらき 1「遺伝情報とDNA」 ・DNAとは ・DNAの構造 〈註〉ヒトゲノム計画 〈観〉DNAの抽出 〈観〉遺伝学の歴史		・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 ・身のまわりの材料のDNA抽出実験を通して生物がDNAをもつことを知る。 ◎ヒトのゲノムがどのような方法で解読され、その結果どのような注意点が生じたかを学ぶ。 ・歴史的な研究成果を追いながら、だれのどのような研究により、遺伝子の本体やDNAの構造が解明されたか、それぞれの経緯を理解する。
後 期	9	2「遺伝情報の発現」 ・遺伝情報とタンパク質 ・RNA ・タンパク質合成 ◎「デオキシリボースとリボース」 ◎「3つの塩基の並び方とトリプレット」 ◎「翻訳のしくみ」 〈註〉生体物質 〈観〉発生と遺伝情報の発現 〈観〉バフの観察	19	・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・生命現象に関わるいろいろなタンパク質について学ぶ。 ◎DNAとRNAをそれぞれ構成するデオキシリボースとリボースの構造について知る。 ◎アミノ酸を指定するために4種類の塩基が必要な理由を理解し、トリプレットの種類について学ぶ。 ◎mRNAのコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを学ぶ。 ◎DNAの転写とハエなどの発生過程でみられるバフの関係性を理解する。 ・だ腺染色体のバフを光学顕微鏡で観察しスケッチする。
	10	3「遺伝情報の分配」 ・染色体とDNA ・細胞分裂 ・細胞の分化 〈観〉体細胞分裂 〈観〉相補性を利用したDNAの複製		・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。 ・体細胞分裂時の染色体の動きを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・細胞周期における各時期に要する時間と観察される数との関係について考察する。 ◎DNAとヒストンにより構成される染色体の構造について理解する。 ・分裂する細胞としない細胞にはどのような違いがあるか細胞周期をもとにして理解する。 ◎核の中で、DNAが塩基の相補性に基づき複製されるしくみを図をもとにして学ぶ。 ・体細胞分裂のひとつである卵割の観察を行い、卵割と通常の体細胞分裂の違いについて考察する。
	12	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 体内環境		・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などのはたらきを学ぶ。 ◎細胞膜の性質としての選択的透過性には、エネルギーを必要としない受動輸送とエネルギーが必要な能動輸送があることを学ぶ。 ◎酸素解離曲線の意味と、酸素とヘモグロビンの結合に
	1	1「体液という体内環境」 ・体内環境と恒常性 ・体液と循環		

	・血液凝固と線溶 ・体液組成と生命活動 〈特〉細胞膜の性質とはたらき 〈特〉酸素解離曲線 〈観〉血液凝固の観察	影響する諸条件について理解し、組織への酸素の受け渡し方について学ぶ。 ◎血小板と血しょう中に含まれるタンパク質やCa^{2+}の相互作用について理解し、凝固が起こるしくみについて学ぶ。 ・動物の血球を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。
2	2「腎臓と肝臓」 ・腎臓と肝臓の役割（分業、協働） ・腎臓 ・肝臓 〈特〉再吸収と濃縮（濃縮率） 〈特〉体液濃度の調節	・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。 ・肝臓の構造と働きを知り、腎臓との関係を理解する。 ・血液を材料として、塩類濃度の変化が血液に与える影響を開べ、さらに血液凝固や血流の観察を行うことで、体内環境を保つ上で血液が重要な役割を果たしていることを理解する。
3		
	総 時 間 数	39

学年・学期	単 元	単元目標	学習目標	評価方法
	第1学期 第1単元	「細胞の構造」の学習を通して、	「細胞の構造」の学習を通して、	評価
	第2学期 第2単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第3学期 第3単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価

学年・学期	単 元	単元目標	学習目標	評価方法
	第1学期 第4単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第2学期 第5単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第3学期 第6単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価

学年・学期	単 元	単元目標	学習目標	評価方法
	第1学期 第7単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第2学期 第8単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第3学期 第9単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第4学期 第10単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第5学期 第11単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第6学期 第12単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第7学期 第13単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第8学期 第14単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第9学期 第15単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第10学期 第16単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第11学期 第17単元	「動物の体内環境」の学習を通して、	「動物の体内環境」の学習を通して、	評価
	第12学期 第18単元	「植物の体内環境」の学習を通して、	「植物の体内環境」の学習を通して、	評価

教科名	科目名	単位数	科	履修年次
理科	理数物理（理数物理Ⅰ）	2	理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選	一 斉 授 業	理科（物理科）		

教科書（発行所）	物理基礎（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リード Light ノート（数研出版）

目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物理の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理的に探求する能力や態度を養うとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学習のねらい	1：速度 スカラー量と、ベクトル量の違いを理解する。 2：加速度 単位時間当たりの速度の変化という新しい物理量を理解する 3：力 力の定義を理解する。運動の定義を理解する。 4：運動の法則 力と加速度，運動の関係を理解し，運動方程式が応用できるようにする。		
定期考查	出題方針	教科書，リード Light ノートの問題を中心に出题する。	
	範囲 (予定)	1 回考查	速度，加速度
		2 回考查	落体の運動，力とそのはたらき，力のつりあい
		3 回考查	運動の法則，摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力，仕事と力学的エネルギー
		4 回考查	熱，波
		認定考查	電気，物理学と社会
評価の観点 評価の方法	◎評価の観点は，科学への関心，意欲・態度，科学的な見方や考え方，科学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は，定期考查に加えて実験レポート，提出課題等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス	高校生になり，本格的な科学への第一歩の時期です。できない，わからないは当たり前です。授業を理解することは大事ですが，この一年間でわからないことへの自分なりの対処の仕方を身につけましょう。どんな些細なことでもかまいません，わからないこと，疑問に思ったことがあれば先生に質問してみてください。		

年 間 授 業 計 画					
学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント	
前 期	4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1.速度 2.加速度	10	・速度の合成・分解，相対速度の作図，計算を理解させる。 ・等加速度直線運動の概念を理解させる。	
	5	第1回考查	8	・力の種類とそのはたらき方(作用点・方向)を理解させる。	
	6				
	7	第2章 運動の法則 1.力とそのはたらき 2.力のつりあい	第2回考查	8	・物体は接触しているほかの物体から力を受けることを踏まえ，身近な事例から作用・反作用の法則，力のつりあい，合成・分解を理解する。
後 期	9	第3章 仕事と力学的エネルギー 1.仕事 2.運動エネルギー 3.位置エネルギー 4.力学的エネルギーの保存	16	・物体のもつ運動エネルギーと物体にする仕事との関係を理解する。	
	10	第3回考查	16	・熱運動と温度との関係を理解する。 ・熱量の保存から物質の比熱を測定することを理解する。 ・エネルギーは変換するときに利用されることを理解する。 ・熱機関を学習し，熱はすべてを仕事に利用できないことを理解する。	
	11				
	12	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1.熱と熱量 2.熱と物質の状態 3.熱と仕事 4.不可逆変化と熱機関	第4回考查	20	・波の独立性と重ね合わせの原理について理解する。 ・音が波であることを，波の諸現象である反射，屈折などからとらえる。
	1				
	2	第3編 波 第1章 波の性質 1.波と媒質の運動 2.波の伝わり方 第2章 音 1.音の性質 2.発音体の振動と共振・共鳴	単位認定考查	78	・静電気の現象や電流に着目し，電気のはたらきや電荷の流れを理解する。 ・電荷の保存，電流のしくみ，放電現象など理解する。 ・電流と磁場，電場の変化と電流などを理解する。 ・直流と交流の違い，交流の有用性(変圧器など)を理解する。 ・電波の種類や伝播などの基本的な事項を学習し，電波の特徴を理解する。 ・自動車やシューズの靴底，ヒートポンプ，音波やX線など身の回りの事象を取り扱い，そのしくみを理解する。 ・広義のエネルギー保存について，発展的に学習することを通して，エネルギーが有限であることについての理解を深めさせる。
	1				
	2	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1.電気の性質 2.電流と電気抵抗 3.電気とエネルギー 第2章 交流と電磁波 1.交流 2.電磁波	単位認定考查	78	・静電気の現象や電流に着目し，電気のはたらきや電荷の流れを理解する。 ・電荷の保存，電流のしくみ，放電現象など理解する。 ・電流と磁場，電場の変化と電流などを理解する。 ・直流と交流の違い，交流の有用性(変圧器など)を理解する。 ・電波の種類や伝播などの基本的な事項を学習し，電波の特徴を理解する。 ・自動車やシューズの靴底，ヒートポンプ，音波やX線など身の回りの事象を取り扱い，そのしくみを理解する。 ・広義のエネルギー保存について，発展的に学習することを通して，エネルギーが有限であることについての理解を深めさせる。
	2				
			第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1.エネルギーの移り変わり 2.エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界 1.摩擦をコントロールする 2.エネルギーを有効利用する 3.見えないものを見る	単位認定考查	78
		総 時 間 数	78		

教科名	科目名	単位数	科	履修年次
理科	理数物理（理数物理R）	2	理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選	一 斉 授 業	理科（物理科）		

教科書（発行所）	物理基礎（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リード Light ノート（数研出版）

目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物理の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理的に探求する能力や態度を養うとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学習のねらい	1：速度 スカラー量と、ベクトル量の違いを理解する。 2：加速度 単位時間当たりの速度の変化という新しい物理量を理解する 3：力 力の定義を理解する。運動の定義を理解する。 4：運動の法則 力と加速度、運動の関係を理解し、運動方程式が応用できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書、リード Light ノートの問題を中心に出题する。	
	範囲 (予定)	1 回考査	速度、加速度
		2 回考査	落体の運動、力とそのはたらき、力のつりあい
		3 回考査	運動の法則、摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力、仕事と力学的エネルギー
		4 回考査	熱、波
	認定考査	電気、物理学と社会	
評価の観点 評価の方法	◎評価の観点は、科学への関心、意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、定期考査に加えて実験レポート、提出課題等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス	高校生になり、本格的な科学への第一歩の時期です。できない、わからないは当たり前です。授業を理解することは大事ですが、この一年間でわからないことへの自分なりの対処の仕方を身につけましょう。どんな些細なことでもかまいません、わからないこと、疑問に思ったことがあれば先生に質問してみてください。		

年 間 授 業 計 画				
学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1.速度 2.加速度	10	・速度の合成・分解、相対速度の作図、計算を理解させる。 ・等加速度直線運動の概念を理解させる。
	5	第1回考査	8	・力の種類とそのはたらき方(作用点・方向)を理解させる。
	6			
	7	第2回考査	8	・物体は接触しているほかの物体から力を受けることを踏まえ、身近な事例から作用・反作用の法則、力のつりあい、合成・分解を理解する。
後 期	9	第3章 仕事と力学的エネルギー 1.仕事 2.運動エネルギー 3.位置エネルギー 4.力学的エネルギーの保存	16	・物体のもつ運動エネルギーと物体にする仕事との関係を理解する。
	10	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1.熱と熱量 2.熱と物質の状態 3.熱と仕事 4.不可逆変化と熱機関	16	・熱運動と温度との関係を理解する。 ・熱量の保存から物質の比熱を測定することを理解する。 ・エネルギーは変換するときに利用されることを理解する。 ・熱機関を学習し、熱はすべてを仕事に利用できないことを理解する。
	11			
	12	第3編 波 第1章 波の性質 1.波と媒質の運動 2.波の伝わり方 第2章 音 1.音の性質 2.発音体の振動と共振・共鳴	20	・波の独立性と重ね合わせの原理について理解する。 ・音が波であることを、波の諸現象である反射、屈折などからとらえる。
	1	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1.電気の性質 2.電流と電気抵抗 3.電気とエネルギー 第2章 交流と電磁波 1.交流 2.電磁波		・静電気の現象や電流に着目し、電気のはたらきや電荷の流れを理解する。 ・電荷の保存、電流のしくみ、放電現象など理解する。 ・電流と磁場、電場の変化と電流などを理解する。 ・直流と交流の違い、交流の有用性(変圧器など)を理解する。 ・電波の種類や伝播などの基本的な事項を学習し、電波の特徴を理解する。 ・自動車やシューズの靴底、ヒートポンプ、音波やX線など身の回りの事象を取り扱い、そのしくみを理解する。 ・広義のエネルギー保存について、発展的に学習することを通して、エネルギーが有限であることについての理解を深めさせる。
	2	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1.エネルギーの移り変わり 2.エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界 1.摩擦をコントロールする 2.エネルギーを有効利用する 3.見えないものを見る		
単位認定考査				
総 時 間 数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	理数化学（理数化学）	2	理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
必修	一斉授業	理科（化学科）		

教科書（発行所）	改訂版 化学基礎（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	四訂版 リードα化学基礎（数研出版）

目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な自然観を育成する。		
学習のねらい	1. 物質の構成と化学結合 化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心高め、物質を探究する方法を身に付ける。また、物質の構成粒子を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 2. 物質の変化 物質と質量、気体の体積、粒子数の関係が理解できる。また、化学変化を化学反応式で表すことができ、化学反応式の量的関係が理解できる。酸と塩基の反応、酸化還元反応を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や法則を理解する。		
定期考査	出題方針	教科書、リードα化学基礎及び授業プリントを中心に出题する。	
	範囲 (予定)	1回考査	物質の種類と性質、物質と元素、三態と熱運動
		2回考査	原子の構造、電子配置と周期表、イオン、分子、金属
		3回考査	原子量・分子量と式量、物質質量、濃度、化学反応式
		4回考査	酸と塩基
		年度末考査	酸化還元反応
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点とは、科学への関心、意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、授業での取り組み、定期考査、提出物（リードα演習ノート、休業中課題等）実験レポート等により総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	①予習…教科書や授業プリントをもとに、前回の授業の見直し。 ②授業中…授業プリントに記入しながら理解する。 ③復習…学習した内容に対応した問題（リードα化学基礎）を解く。 ④考査を受けるまでにしておくこと…リードα化学基礎の問題をすべて解けるように努力をする。 ※実験にあたっては注意をよく聞いて、積極的に活動をするように心がける。		

年 間 授 業 計 画					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前期	4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	・純物質と混合物 ・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動	5	・混合物から純物質を取り出す方法を理解する。 ・元素と単体の違いを理解する。 ・粒子の熱運動をイメージし、三態変化を理解する。
			第2章 物質の構成粒子	6	・原子を構成する粒子、同位体について理解する。 ・電子配置を理解し、元素の分類（典型と遷移など）や族の名称、その性質を理解する。
	5		・原子とその構造 ・イオン ・電子配置と周期表		
			第3章 粒子の結合	10	・イオンの生成、イオン結合について理解する。また、イオン式を知り、イオンからなる物質を組成式で表せることを理解する。 ・共有結合の仕組みを知り、分子を電子式や構造式で表すことを理解する。 ・身の回りにある共有結合でできた物質を知り、それらの特徴を分子間力と合わせて理解する。 ・金属結合の仕組みと、金属結合でできた物質の特徴を理解する。
	6		・イオン結合 ・分子と共有結合 ・分子間にはたらく力 ・共有結合結晶 ・金属結合		
	7				
	8				
	9	序章 化学と人間生活	・人間生活の中の化学 ・化学とその役割	4	・身の回りにある様々な物質（金属や高分子、洗剤や食品添加物）について、我々の生活との関連について考える。 （サイエンスタイム）
			第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式	14	・原子量の基準を知り、原子の相対質量、原子量、分子量、式量の計算方法を理解する。 ・物質質量〔mol〕と個数、質量、気体の体積の関係を理解する。 ・質量パーセント濃度、モル濃度の求め方を理解する。 ・化学反応式の書き、反応物や生成物の量的関係を理解する。 ・現代化学の基礎となっている諸法則を理解する。
後期	10	第2章 酸と塩基の反応	・酸・塩基 ・水の電離と水溶液のpH ・中和反応 ・塩 ・中和滴定と滴定曲線	19	・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和反応と、生成する塩の性質について理解する。 ・中和滴定の操作を習得し、中和反応の量的関係を理解する。
	11				
	12				
	1	第3章 酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用	20	・酸化・還元の定義について理解する。 ・酸化剤、還元剤について理解する。 ・金属のイオン化傾向を知り、金属の反応性の違いを理解する。
	2				
		総 時 間 数		78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理数	理数生物	2	理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科(生物学科)		

教科書（発行所）	改訂生物基礎（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	リードLightノート（数研出版）

目 標	生物や生物現象についての観察実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を養うとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。また、学習内容について、発展的に知識・理解を深める。		
学習のねらい	1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。		
定 期 考 査	出題方針	教科書及び授業プリントの内容がよく理解できているかどうかを反映される問題を出題する。	
	範 囲 (予 定)	第 1 回	原核生物と真核生物、酵素の性質、葉緑体・ミトコンドリアの構造とはたらき、現在もみられる細胞内への共生
		第 2 回	ヒトゲノムプロジェクト、DNA と染色体、分裂する細胞、分裂しない細胞、DNA の複製、生命現象とタンパク質、翻訳のしくみ
		第 3 回	細胞の膜のはたらき、血液凝固反応、尿の生成と老廃物の濃縮、内分泌腺と外分泌腺、ホルモンの発見、体脂肪量の調節
		第 4 回	免疫細胞の対応、自己と非自己の認識、移植された組織に対する免疫反応、花粉症のしくみ、ABO 式血液型と抗原抗体反応
		認 定	湖沼からはじまる遷移、植物の生活形、日本の草原植生、熱帯多雨林の生物多様性、小笠原諸島の外来生物問題
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、関心・意欲・態度、思考・判断、実験・観察の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は定期考査を中心にして、授業プリントの提出、実習のレポートを適切に活用して総合的に行う。また、実習においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からのアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	生物や生物現象に関することについて、まず興味を持つことが大切である。授業ごとに、授業プリントを復習していく習慣をつけることも重要なことである。実験には積極的に取り組み、単に結果を記録するだけでなく、そのような結果になった理由を自分なりに考察していく姿勢が大切である。ノートについてはしっかりメモを取り、見直したときに復習しやすいノートづくりを心がける。		

年 間 授 業 計 画				
学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1 「生物の多様性と共通性」 ・多様性と共通性の由来 ・共通性（生物の特徴） ・細胞 〈参〉ウイルスの取り扱い 〈観〉原核生物と真核生物の観察	39	・生物の特徴の1つに挙げられる、多様性と共通性について学ぶ。 ・身のまわりの原核細胞・真核細胞を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。
	5	2 「エネルギーと酵素と代謝」 ・生命活動とエネルギー（ATP） ・代謝と酵素 〈参〉酵素のはたらき 3 「光合成と呼吸」 ・光合成 ・呼吸 ・エネルギーの流れ ・細胞内共生 〈参〉葉の構造と葉緑体 〈参〉光のエネルギーを用いて有機物がつくられることの確認 〈参〉葉緑体とミトコンドリア		・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてのはたらきATPについて学ぶ。 ・ATPと発光物質を組み合わせ、環境の汚染度が測定できることを知る。 ◎酵素の基質特異性や最適温度・最適pHについて学ぶ。
	6	第2章 遺伝子とそのはたらき 1 「遺伝情報とDNA」 ・DNA とは ・DNA の構造 〈参〉ヒトゲノム計画 〈参〉DNAの抽出 〈参〉遺伝学の歴史		・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 ・身のまわりの材料のDNA抽出実験を通して生物がDNAをもつことを知る。 ◎ヒトのゲノムがどのような方法で解読され、その結果どのような注意点が生じたかを学ぶ。 ・歴史的な研究成果を追いながら、だれのどのような研究により、遺伝子の本体やDNAの構造が解明されたか、それぞれの経緯を理解する。
	7	2 「遺伝情報の発現」 ・遺伝情報とタンパク質 ・RNA ・タンパク質合成 ◎「デオキシリボースとトリボース」 ◎「3つの塩基の並び方とトリプレット」 ◎「翻訳のしくみ」 〈参〉生体物質 〈参〉発生と遺伝情報の発現 〈参〉パフの観察 3 「遺伝情報の分配」 ・染色体とDNA ・細胞分裂 ・細胞の分化 〈参〉体細胞分裂 〈参〉相補性を利用したDNAの複製		・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・生命現象に関わるいろいろなタンパク質について学ぶ。 ◎DNAとRNAをそれぞれ構成するデオキシリボースとトリボースの構造について知る。 ◎アミノ酸を指定するために4種類の塩基が必要な理由を理解し、トリプレットの種類について学ぶ。 ◎mRNAのコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを学ぶ。 ◎DNAの転写とハエなどの発生過程でみられるパフの関係性を理解する。 ・だ腺染色体のパフを光学顕微鏡で観察しスケッチする。
	9	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 体内環境 1 「体液という体内環境」 ・体内環境と恒常性 ・体液と循環		・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。 ・体細胞分裂時の染色体の動きを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・細胞周期における各時期に要する時間と観察される数との関係について考察する。 ◎DNAとヒストンにより構成される染色体の構造について理解する。 ・分裂する細胞としない細胞にはどのような違いがあるか細胞周期をもとにして理解する。 ◎核の中で、DNAが塩基の相補性に基づき複製されるしくみを図をもとにして学ぶ。 ・体細胞分裂のひとつである卵割の観察を行い、卵割と通常の体細胞分裂の違いについて考察する。
				・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などののはたらきを学ぶ。 ◎細胞膜の性質としての選択的透過性には、エネルギーを必要としない受動輸送とエネルギーが必要な能動輸送があることを学ぶ。 ◎酸素解離曲線の意味と、酸素とヘモグロビンの結合に

後 期		・血液凝固と線溶 ・体液組成と生命活動 〈鈹〉細胞膜の性質とはたらき 〈鈹〉酸素解離曲線 〈観〉血液凝固の観察 2 「腎臓と肝臓」 ・腎臓と肝臓の役割（分業，協働） ・腎臓 ・肝臓 〈鈹〉再吸収と濃縮（濃縮率） 〈鈹〉体液濃度の調節	影響する諸条件について理解し，組織への酸素の受け渡し方について学ぶ。 ◎血小板と血しょう中に含まれるタンパク質やCa²⁺の相互作用について理解し，凝固が起こるしくみについて学ぶ。 ・動物の血球を光学顕微鏡で観察し，スケッチする。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより，老廃物は濃縮して尿とし，必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。 ・肝臓の構造と働きを知り，腎臓との関係を理解する。 ・血液を材料として，塩類濃度の変化が血液に与える影響を調べ，さらに血液凝固や血流の観察を行うことで，体内環境を保つ上で血液が重要な役割を果たしていることを理解する。	2	2 物質循環とエネルギーの流れ	・炭素循環とエネルギーの流れ ・窒素循環 〈鈹〉有機物の収支 3 生態系バランス ・生態系バランスとは	り，いわゆる環境問題とその解決策について学ぶ。 ・外来生物による植生の変化を知り，外来生物のもたらす問題について考える。 ・人為的に移入された生物が生態系にどのような影響を与えるかを，文献や資料を用いて具体的に考察する。
	10	3 神経とホルモン	39		3	4 人間活動と生態系の保全	
	11	4 免疫					
	12	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1 さまざまな植生					
	1	第5章 生態系とその保全					

教科名	科目名	単位数	科	履修年次
保健体育	保 健	1	普通科 理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
クラス別	1クラス	保健体育科		

教科書(発行所)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)
教科書以外の教材(発行所)	現代高等保健体育ノート 改訂版 (大修館書店)

目 標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
学習のねらい	1 健康の考え方について思考し、理解する。 2 健康の保持、増進と疾病の予防について思考し、理解する。 3 精神の健康について思考し、理解する。 4 交通安全について思考し、理解する。 5 応急手当について思考し、理解する。		
定期考查	出題方針	基本的な知識の定着と知識を基盤とした思考力を問う。	
	範囲 (予定)	第1回考查	無し
		第2回考查	P6「私たちの健康のすがた」～P29「薬物乱用と健康」 適宜プリント
		前期末考查	無し
		第3回考查	無し
		第4回考查	無し
評価の観点 評価の方法	1 関心、意欲、態度 出欠、授業に対する意欲、態度を評価する。 2 知識、理解 考查の「知識・理解」分野で評価する。 3 思考・判断 考查の「思考・判断」分野で評価する。 4 その他 心肺蘇生法の実習を評価する。		
	1 すべての内容が生きていく上で重要です。 2 教養教育として大変価値があります。 3 教養科目として、受験にも大変有効です。		
先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方、学習ノートの記録の仕方など)	1 すべての内容が生きていく上で重要です。 2 教養教育として大変価値があります。 3 教養科目として、受験にも大変有効です。		

年間授業計画表(男女)				
学期	月	単元	学習内容	学習のポイント
前 期	4	1単元 現代社会 と健康	1 私たちの健康のすがた	1 健康寿命を延ばしていくことが今後の課題である。
			2 健康のとらえ方	2 こんにちでは生活の質を重視した健康観が生まれてきている。
			3 健康と意志決定・行動選択	1 情報収集、計画と評価、社会的な影響力への対処が必要である。
	5		4 健康に関する環境づくり	2 ヘルスプロモーションの考え方によって健康に関する環境づくりが行われている。
			5 生活習慣病とその予防	2 正しい生活習慣の確立が予防につながる。
	6		6 食事と健康	1 食事のリズムを整え、栄養バランスに配慮する。
			7 運動と健康	2 運動はストレスの解消や心の健康にも効果的である。
			8 休養・睡眠と健康	1 疲労回復には、快適な休養・睡眠の確保のために規則正しい生活習慣を確立する必要がある。
	7		9 喫煙と健康	2 喫煙を開始する要因は様々である。それらに対処する能力を身につけることが課題である。
			10 飲酒と健康	2 飲酒による健康被害を防ぐため、さまざまな法的整備が行われている。
	9		11 薬物乱用と健康	2 薬物乱用は心身の健康や社会の安全に重要な影響を及ぼすため、決して行ってはならない。
後 期	10		12 現代の感染症	2 感染症は自然環境や社会環境の影響を受けるため、時代や地域によって発生や流行に違いがみられる。
			13 感染症の予防	1 感染症の予防には、社会的な対策と個人の取り組みが重要である。
			14 性感染症・エイズとその予防	2 性感染症の予防には、個人の対策と社会の対策がある。
	11		22 応急手当の意義とその基本	2 応急手当は、傷病の悪化や苦痛の緩和など様々な意義がある。
			23 心肺蘇生法	3 心肺蘇生法は、人命救助の重要な活動である。
	12		24 日常的な応急手当	2 けがなどの状況を把握し、症状に応じた処置が基本である。
			15 欲求と適応機制	2 心の働きを司るのは大脳辺縁系と大脳新皮質である。
	1		16 心身の相関とストレス 17 ストレスへの対処	1 心と体は密接に関連している。自分にあった方法でストレスをコントロールすることが大切である。
			18 心の健康と自己実現	2 自己実現は高次の欲求である。その過程で得られる達成感などが心の健康につながる。
	2		19 交通事故の現状と要因 20 交通社会における運転者の資質と責任 21 安全な交通社会づくり	1 ・交通事故の要因は、主体要因・環境要因・車両要因である。 1 ・運転者は様々な責任を負い、生命を尊重する態度と適切な状況判断能力が求められる。 1 ・安全な交通社会づくりのために、様々な対策がとられている。
			総時間数	39

教科名	科目名	単位数	科	履修年次
保健体育	体 育	3	普通科 理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
男女別	普通科2クラス合併(2講座) 普通科1クラス理数科1クラス合併(1講座)	保健体育科		
教科書(発行所)				
教科書以外の教材(発行所)		健康・スポーツ個人日誌(独自作成教材), ステップアップ高校スポーツ(大修館)		
目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			
学習のねらい (基本的な考え方)	1 陸上競技 (1) 自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり記録を高めたりする事ができるようにする。 (2) 互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 (3) 自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようにする。 2 球技 (1) チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 (2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 (3) チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようにする。 3 武道 (1) 自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。 (2) 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合ができるようにする。 (3) 自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や、試合の仕方を工夫することができるようになる。 4 ダンス (1) 自己の能力に応じた課題を持って次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、交流し、発表することが出来るようにする。 (2) 互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり発表したりすることが出来るようにする。 5 体育理論 スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解する			
定期考査	な し			
評価の観点 評価の方法	関心、意欲、態度 ・出欠状況、ルーティーンワーク、態度、忘れ物、活動状況等を評価する。 思考、判断、表現 ・「健康・スポーツ個人日誌」、レポート年2回の内容を評価する。 技能 ・授業毎の運動スキルを評価する。 ・単元毎に行われる「スキルテスト」で評価する。 知識・理解 ・「知識、理解定着テスト」で評価する。			
先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、学習ノートの記録の仕方など)	1 時間や約束を守ってください。 2 集団の中で規律を守って行動できるようになってください。 3 グループでコミュニケーションをとり、お互いを承認し、違いを認め合ってください。 4 スポーツを知的に楽しんでください。 5 スポーツを通して試行錯誤しながら、仲間と課題を解決してください。 6 体育の授業で元気になってください。			

年間授業計画表(男女)						
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	オリエンテーション		2	授業を受けるに当たっての注意	
		新体力テスト	握力・長座体前屈・上体おこし・反復横とび・持久走・50m走・ハンドボール投・立ち幅跳び	4	お互い協力しながら手際よく測定できるようにする。	
	5		体育祭の練習	4	走る事の練習(体育祭時の怪我防止)	
		ソフトボール(女子) (男子はバレー)	基本的技能の習得とゲーム ・キャッチボール ・守備 ・打撃 ・ゲーム	10	安全に留意し、お互い協力しながら練習・ゲームを行う。 常に技術習得を意識しながら、練習、ゲームを行い、グループ内では役割を分担しながら学習を進める。	
	6		体育祭の練習	4	走る事の練習(体育祭時の怪我防止)	
	7	体育理論	スポーツの歴史・文化的特徴等	4	スポーツの歴史を学ぶ	
	9	バレーボール(女子) (男子はソフト)	基本的技能の習得とゲーム ・パス ・アタック ・サーブ ・ブロック ・簡易ゲーム ・正規のゲーム	11	安全に留意し、お互い協力しながら練習・ゲームを行う。 常に技術習得を意識しながら、練習、ゲームを行い、グループ内では役割を分担しながら学習を進める。	
	後期	10	バスケットボール(男子) (女子はサッ)	基本的技能の習得とゲーム ・パス ・ドリブル ・シュート ・ディフェンス ・簡易ゲーム ・正規のゲーム	10	安全に留意し、お互い協力しながら練習・ゲームを行う。 常に技術習得を意識しながら、練習、ゲームを行い、グループ内では役割を分担しながら学習を進める。
		11	サッカー (女子はバスケットボール)	基本的技能の習得とゲーム ・パス ・ドリブル ・リフティング ・キック ・シュート ・簡易ゲーム ・正規のゲーム	10	安全に留意し、お互い協力しながら練習・ゲームを行う。 常に技術習得を意識しながら、練習、ゲームを行い、グループ内では役割を分担しながら学習を進める。
		体育理論	スポーツの歴史・文化的特徴等	3	スポーツの経済的波及効果などを学ぶ	
1		陸上競技&器械運動&ダンス の3つの中から1つを選択	・競争・跳躍・投てき ・マット運動 ・創作ダンス リズムダンス	10	常に技術習得を意識しながら、練習を行い、グループ内では役割を分担しながら学習を進める。	
2		長距離走	校内のコースを走る	6	自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを目標とさせる。	
前期		4	武道&球技(選択)		20	礼法の正しい知識の理解や礼法のただしい動作を身につける。 安全に留意しながら基本技術を習得
		5	柔道・剣道	基本技術 ・姿勢、組み方、受け身、技		
		6		基本技術 ・構え、足さばき、技		
		7		基本技能の習得とゲーム		
	9	球技 ハンドボール テニス				
後期	10	武道&球技(選択)	基本技術 ・姿勢、組み方、受け身、技	19	ルールや審判法に留意して安全に試合を行う。	
	11	柔道・剣道	基本技術 ・構え、足さばき、技			
	12		試合の進め方			
	1	球技 ハンドボール テニス				
	2					
総時間数				117		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	音楽Ⅰ	2	普通・理数	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		
教科書（発行所）		MUSA 1（教育芸術社）		
教科書以外の教材		なし		

目 標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
学習のねらい	1 歌唱 曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心をもち、意欲的に歌唱表現している。基本的な発声法を習得し、歌うことの楽しさを感じ取る。合唱活動における協調的態度を育成する。様々な国や地域の歌に親しむ。 2 器楽 いろいろな楽器を体験し、視奏力を伸ばすとともに、曲の構成及び曲想の把握と奏法や表現の工夫を図る。リコーダーの基本奏法の拡充を図る。複合アンサンブルによってアンサンブルの広がりを感じ取る 3 創作 いろいろな音階による旋律の創作や、旋律に対する和音の工夫、いろいろな音素材による即興的表現の体験をする。楽譜に対する基礎知識の充実。 4 鑑賞 さまざまな鑑賞を通して、声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲を成立させた歴史的背景を学ばせる。我が国の伝統音楽や、世界の諸民族の音楽の種類と特徴について学習する。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 観点別到達度、演奏の完成度の判定、鑑賞能力判定、自己評価（自己計画性）の4つのポイントを総合して評価する。 ○ 演奏に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。
先生からのアドバイス	・音や音楽に対する興味や関心を日頃からもち、意欲的に表現しようとするのが大切です。 ・様々な音楽に意欲的にふれることで今まで未知であった音楽に対する発見があり、嗜好する音楽の視野を広げるきっかけができます。どんな分野の音楽も積極的に取り組みましょう。 ・作品として形に残らないものですが、だからこそ発表までの過程が大切であり、それを発表することで自信や集中力を身に付けて欲しいと思います。 ・周りの仲間の個性を尊重し合い、協力しあいながら日々の授業に取り組んで下さい。 ・音楽の基礎理論や楽器などに対する基礎知識の充実により、音楽の楽しみは更に深まります。音楽をより深く知るために、しっかりと基礎を授業で学んで下さい。

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	校歌・発声練習 Ave Maria	4	自校の校歌の歌詞を良く味わい、のびのびと元気に歌唱する。 正しい発声を身につける。
	5	心の歌 ありがとう、少年時代、花 見上げてごらん夜の星を	6	平易な二部合唱を含む歌唱活動に意欲的に取り組む。 それぞれの音楽の曲想を感じ取り、表現方法を工夫する。 中学での復習を中心に、表現活動で頻出する表現記号や強弱記号について理解する。
		易しい楽典	7	言葉の意味や歌詞が表す情景や心情と音楽との関わりを感じ取る。自分なりのイメージをもって独唱にふさわしい表現を追求する。
	6,7	イタリア語の歌を歌おう ‘O sole mio Caro mio ben	6	ギターの基本的奏法やコードを習得する。
後			2	独唱や合唱曲を鑑賞し、自国の音楽の独創性や美しさを味わい、各パートの役割を理解しながら曲想にあった表現方法を工夫する。
	9	ギターの基礎・応用練習①	14	自分の心に残る演奏を作り上げる。
	10	青春を歌う 涙そうそう、空も飛べるはず 島唄	16	
		ギターの基礎・応用練習 クラシック奏法「ロマンス」 弾き語り（自由課題）	4	
	11	日本の歌曲 日本の四季等	12	卒業式で1、2年生音楽選択者全員による合唱を行う。 卒業生の心に残る音楽を工夫する。
	1	卒業式に向けて 卒業生を送る歌	5	我が国の伝統音楽を鑑賞し、その民族性や美しさを味わう。 自国の音楽に対する誇りを培う。
	2			
		日本の音楽 箏曲・尺八・三味線	2	
	3	発表 卒業生を送る歌		
		総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	美術 I	2	普通・理数	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	高校生の美術 I（日本文教出版）
教科書以外の教材	なし

目 標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
学習のねらい	1 木炭静物素描・静物着彩画・鑑賞 木炭の特性と基本的な技法を学び、形や光と影、空間をとらえる。アクリル絵の具の特性と基本的な技法を学び、意欲的にいろいろな表現方法を試みる。完成に向けて自分の表現を受け止めながら制作を進める。 お互いの作品を鑑賞しあい、よいところを見つけることでそれぞれの個性を認めることができるようにする。 2 人物クロッキー、デッサン、自画像着彩画・鑑賞 木炭やコンテでクロッキーやデッサンを楽しみ、人物画への抵抗を取り除く。似ることの意味や方法を知る。人物画は似せること以外に造形的魅力の表現が大切であること気づくようにする。固有色にとどまらず、主観的な色彩で主体的に着彩を楽しむようにする。 3 デザイン・鑑賞 造形と機能の関わりを考え、ポスターをデザインする。 グラフィックソフトの基礎を学習し、ポスターを制作する。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 制作の段階においての観点別到達度、作品の完成度の判定、感想文等による鑑賞能力判定の3つのポイントを総合して評価する。 ○ 作品に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。
先生からの アドバイス	・表現する技能を身につけることも大切ですが、絵を描くことが苦手な人でも芸術に対する興味や関心を持って、芸術作品を楽しめるような気持ちを育てることが大切です。 ・表現することは自分を表すことであり、自分を表すためには自分自身を見つめることが必要です。今の自分を受け入れて、よりよくしていこうという気持ちが表現につながります。 ・自分の個性を大切にすることと同様に、友達の個性や個性的な表現を大切にしましょう。 ・表現することの楽しさと難しさとを知り、芸術のよさを味わってもらいたいです。

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	木炭による幾何形態デッサン ・モチーフをよく観察し、素直表現 ・光と陰を木炭で表現 ・基本的な形態の表現	6	・B4画用紙、木炭、練りゴム、布 ・光の順光と反射光に気づく。 ・木炭や布の使い方を知る。 ・修正点をを探索することで描き進める。
	5	木炭による静物デッサン ・構図の重要性 ・静物間の関係	6	・画面の上下左右の切り方による効果に気づく。 ・明度差で色彩の違いを表現する。
	6	・色彩の明度化 ・質感の表現		・ハイライトの形や光の反射の様子で質感の違いを表現する。
	7	静物画 ・アクリル絵の具の特性や扱い方 ・画面の骨組みとしての構図 ・形の組み合わせや色彩、タッチ等の造形要素 ・制作中の気持ちの有り様	16	・アクリル絵の具一式、8号キャンバス イーゼル、水入れ、ティッシュペーパー ・画材の特性を知って修正方法を理解する。 ・画面の中のモチーフの大きさや組み合わせ、バランスなど考慮し、画面への取り入れ方吟味する。
	9	静物画<鑑賞> ・相互鑑賞	4	・単色の絵の具を使ったデッサンから描き始める。 ・混色を避け重色で彩度の低下を防ぐ。
	10	人物画 ・人物クロッキー 細部にこだわらず体全体の動きや比例に着目 ・人物デッサン 似ることよりも頭部の造形的な魅力 ・自画像デッサン 各部のレイアウトの調整	4	・言葉や文章にして表現する。 ・思いどおりにできたところもできなかったところも肯定的に受け入れるようにする。
後期	11	・自画像着彩画 自分の顔が持つ造形的な魅力の表現	4	・スケッチブック、コンテ ・体の重心や各部の基本的なプロポーションを知る。 ・よいポーズを考える。
	12	人物画、デッサン、クロッキー<鑑賞> ・相互鑑賞	4	・顔が似ることの意味を考え、似なくてもよい事に気づく。 ・顔が似る要素を考え、必要なら参考にする。
	1	ポスターの作成（オープンスクール） ・コンピュータを使用して画像の加工や編集 ・AIDMAの定理 ・コンピュータを使ってオープンスクールのポスター作成 ポスター<鑑賞> ・相互鑑賞	10 2	・スケッチブック、木炭 ・輪郭線より光と影を手がかりに描き進める。 ・アクリル絵の具一式、8号キャンバス イーゼル、水入れ、ティッシュペーパー ・描かれた画面の中からも面白い効果を見つけだし、生かすようにする。 ・背景を空間として捉え、人物と一体感ができるようにする。 ・言葉や文章にして表現する。 ・似ていることよりも表現された造形的魅力に着目する。
総 時 間 数			78	

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	科	履修年次
芸術	書道 I	2	普通・理数	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		

教科書 (発行所)	書 I (光村図書)
教科書以外の教材	なし

目 標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
学習のねらい	1 「 漢字の書 」 - 漢字の成立と変遷について理解する。 - 楷書の特徴やその美について理解し、その書風の違いについて鑑賞する。 - 楷書の基本的な用筆・運筆法を古典の臨書を通じて身に付け、さらに多様な表現力を養う。 - 行書の特徴やその美について理解し、鑑賞する。 - 行書の基本的な用筆・運筆法を古典の臨書を通じて身に付け、さらに多様な表現力を養う。 - 落款の意味と役割について理解する。 2 「 仮名の書 」 - 仮名の成立や変遷について理解する。 - 仮名の基本的な用筆・運筆法を身に付ける。 - 古筆の流麗美について理解し、鑑賞する。 - 古筆の臨書を通して、さらに多様な表現力を養う。 3 「 漢字仮名交じりの書 」 - 漢字と仮名の調和を図る技能を身に付ける。 - 創作の手順を理解し、自己の意図に基づく表現の工夫をする。 - 暮らしの中の書について考え、その目的・用途に応じた表現ができる。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、「書への関心・意欲・態度」、「書表現の構想と工夫」、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」の4観点です。 ○ 書道作品集 (学習プリント・作品・レポート等)、評価カード、授業態度等により総合的に評価します。 ○ 提出期限までに、書道作品集を必ず提出すること。
先生からの アドバイス	・書に興味・関心を持ち、意欲的に授業に参加することが大切です。 ・毎時間書道用具、筆記用具等忘れ物のないように準備しましょう。 ・規範となる優れた古典や、近現代に至るさまざまな名筆の技法や美にふれ、自分の書の表現に生かせるようにしましょう。 ・「書は人なり」自らの感性で美しいと感じ、楽しいと思えるような表現方法が発見できるよう、書に対する視野を広げていきましょう。 ・希望者は、コンクールに出品することができます。積極的に取り組んでみましょう。

年間授業計画表

学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	○はじめに 書写から書道へ 用具・用材 漢字の成立と変遷 篆刻	2	「書は人なり」書の表現の多様性を理解し、意欲的に授業に臨みましょう。
	5	○漢字の書	6	印刀・印材の扱い方に気を付け、姓名印を完成させましょう。
	6	楷書の特徴とその美 楷書の基本 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 牛極像造記	20	楷書の基本的な表現技法をしっかり学びましょう。 古典の特徴を理解し、それぞれの字形や用筆・運筆法を習得しましょう。 落款の意味と役割について理解し、自己作品に押印してみよう。
	7	学習した古典を生かした創作		今までに学習した、古典の特徴をしっかり捉え、自分のイメージする表現につながるように工夫しましょう。
	9	行書の特徴とその美 行書の基本 蘭亭序	20	行書の基本的な表現技法をしっかり学びましょう。 行書の特徴を理解し、行書の持つ流動的な表現技法を習得しましょう。
	10	風信帖 学習した古典を生かした創作		書道字典なども活用して、自己のイメージする表現につながるように工夫しましょう。
後期	11	○仮名の書 仮名の成立と変遷 仮名の基本 いろは歌 高野切第三種	16	仮名の成立や変遷に関心を持ち、楽しんで仮名の学習を進めましょう。 仮名の用筆・運筆法を習得するためには、姿勢・執筆法が大切です。常に心がけましょう。 古筆を通じて、日本の伝統的な美について理解しましょう。
	12	学習した古筆を生かした創作		
	1	○漢字仮名交じりの書 題材の選定 構成・制作意図	14	今までに学習した漢字と仮名を調和させて表現していきます。自分の好きな題材を選ぶことから、その言葉に思いを託し、制作意図を考えていきます。自分で作品のイメージをふくらませることが大切になってきます。それを伝えるためにいろいろな表現の工夫をしてみましょう。
	2	暮らしの中の書		実生活において書がどのくらい活用されているか、考えていきましょう。
総 時 間 数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ (S・T)	3	普通科 理数科	1
履修形態		授 業 形 態		
全		一 斉 授 業・ティームティーチング		
		指 導 者 名		
		英 語 科		

教科書（発行所）	Revised BIG DIPPER English CommunicationⅠ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	Revised BIG DIPPER English CommunicationⅠワークブック（数研出版）

目 標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回	Lesson 1 ～ Lesson 3
		第2回	Lesson 4 ～ Lesson 7
		第3回	Lesson 8 ～ Lesson10
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	1年生では、英語の基礎を徹底的に学習する。予習・授業・復習という学習スタイルを早く確立することが大切である。予習で「分かる」ことと「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて、しっかり身につけることが大切である。 ティームティーチングの授業では、英語でディスカッションやディベートを行うことを目標に、積極的に英語でコミュニケーションを図る能力、態度を養う。積極的な参加、発言が肝要である。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
通 期	4	1	High School Life at Home and Abroad	10	日本と海外の高校生活の違いに関する英文を読む。
		2	Giant Pandas: Everyone's Favorite	10	パンダの特徴やパンダを取り巻く環境、パンダ保護の取り組みに関する英文を読む。
		3	Yanase Takashi: The Creator of Anpanman	10	やなせたかしがアンパンマンという異色のヒーローを作り出した経緯ややなせの考えに関する英文を読む。
	5	第1回考査			
		4	The History of the Telephone ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	12	電話（特に携帯電話）の技術的改良の歴史を学ぶとともに、携帯電話のメリット/デメリットについて考える。
		5	Universal Design: Why Is It Important for You?	10	ユニバーサルデザインについての英文を読む。
	7	6	J.K. Rowling: Everyone Has Hidden Power	10	J. K. ローリングが小説の構想を得てから書籍の発行に至るまでの苦労や、「ハリー・ポッター」に込めた思いについての英文を読む。
		7	The Bicycle: An Old Friend and a New Friend	12	自転車を利用することの利点および自転車に関する問題と他の国におけるその解決策についての英文を読む。
		第2回考査			
	9	8	From Child to Adult: When Do You Change?	12	世界の国における成人年齢や「成人として必要なことは何か」「大人とはどういう人か」についての英文を読む。
		9	Food Miles: Where Does Our Food Come From? ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	15	食品輸入の問題点・その解決策としての地産地消、食品輸入の是非についての英文を読む。
		10	Logical Thinking: A Skill for World-class Players	16	スポーツ選手にとって重要な「論理的思考」についての英文を読み、言葉で表現することの大切さを学ぶ。
	10	第3回考査			
		総時間数		117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ (U)	3	普通科 理数科	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業・ティームティーチング	英語科		

教科書（発行所）	Revised BIG DIPPER English CommunicationⅠ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	Revised BIG DIPPER CommunicationⅠワークブック（数研出版）， NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 3（Z会出版）

目 標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回	BIG DIPPERⅠ:Lesson1～Lesson3, New Treasure3: Lesson1～Lesson3
		第2回	BIG DIPPERⅠ:Lesson4～Lesson6, New Treasure3: Lesson4～Lesson6
		第3回	BIG DIPPERⅠ:Lesson7～Lesson10, New Treasure3: Lesson7～Lesson9
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	1年生では、英語の基礎を徹底的に学習する。予習・授業・復習という学習スタイルを早く確立することが大切である。予習で「分かる」とこと「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて、しっかり身につけることが大切である。 ティームティーチングの授業では、英語でディスカッションやライティング活動を行い、積極的に英語でコミュニケーションを図る能力、態度を養う。積極的な参加、発言が肝要である。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
通 期	4	T1	Life in Chile as a JOCV Volunteer	9	ある青年海外協力隊員のエッセイを読む。
		1	High School Life at Home and Abroad	3	日本と海外の高校生活の違いに関する英文を読む。
		T2	Say “I am the Strongest” — Shingo Kunieda	9	車椅子テニスチャンピオンの強さの秘密を考える
		2	Giant Pandas: Everyone's Favorite	3	パンダの特徴やパンダを取り巻く環境、パンダ保護の取り組みに関する英文を読む。
	5	T3	Jokes — Laughter Is the Best Medicine.	9	ジョークのはたらきと、さまざまな種類の実例について読む。
		3	Yanase Takashi: The Creator of Anpanman	3	やなせたかしがアンパンマンという異色のヒーローを作り出した経緯ややなせの考えに関する英文を読む。
		第1回考査			
		T4	The Mystery of “The Pied Piper of Hamelin”	9	『ハーメルンの笛吹き男』の物語を理解とその解釈について考える。
	6	4	The History of the Telephone ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	3	電話（特に携帯電話）の技術的改良の歴史を学ぶとともに、携帯電話のメリット/デメリットについて考える。
		T5	Artificial Intelligence — How Can We Get Along with Computers?	9	科学技術の進化に伴う問題点について考える。
		5	Universal Design: Why Is It Important for You?	3	ユニバーサルデザインについての英文を読む。
		T6	Kabuki — Traditional Art Continuing to Evolve	10	伝統ある歌舞伎が進化していく様子を読み取る。
	7	6	J.K. Rowling: Everyone Has Hidden Power	3	J. K. ローリングが小説の構想を得てから書籍の発行に至るまでの苦労や、「ハリー・ポッター」に込めた思いについての英文を読む。
		第2回考査			
		T7	Guernica — Picasso's Message against War	10	『ゲルニカ』についての内容を理解し、整理する。
		7	The Bicycle: An Old Friend and a New Friend	3	自転車を利用することの利点および自転車に関する問題と他の国におけるその解決策についての英文を読む。
	9	T8	Do You Speak a “Broken” Language?	10	話し言葉としての英語には多様な違いがあることについて学ぶ。
		8	From Child to Adult: When Do You Change?	3	世界の国における成人年齢や「成人として必要なことは何か」「大人とはどういう人か」についての英文を読む。
		T9	Sleeping Patterns in the Animal World	10	動物たちの睡眠状況や特徴についての情報をまとめる。
	10	9	Food Miles: Where Does Our Food Come From? ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	4	食品輸入の問題点・その解決策としての地産地消、食品輸入の是非についての英文を読む。
		10	Logical Thinking: A Skill for World-class Players	4	スポーツ選手にとって重要な「論理的思考」についての英文を読み、言葉で表現することの大切さを学ぶ。
		第3回考査			
		総時間数		117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ (S・T)	1	普通科 理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
分割履修	一 斉 授 業・ティームティーチング	英 語 科		

教科書（発行所）	BIG DIPPER English CommunicationⅡ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	BIG DIPPER English CommunicationⅡ ワークブック（数研出版）

目 標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。 ・ティームティーチングの授業では、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、英語によるディスカッションやディベートを 通して自分の意見を発表する能力の育成を図る。		
定期考查	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第4回	Lesson 1～Lesson 2
		年度末考查	Lesson 3～Lesson 4
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考查を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	コミュニケーション英語Ⅱの授業はコミュニケーション英語Ⅰの活動を発展させたものです。コミュニケーション英語Ⅰの内容で理解できていないところがあるとコミュニケーション英語Ⅱではわからないところが増えてしまいます。復習も必ず必要です。また、提出物は期限を守って下さい。そのためには、計画的な取り組みが必要です。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
通 期	11	1	Sakura	10	桜にまつわる意外な事実を通して、日本の歴史や文化、日本人の感性について考える。
	12	2	How Good is Your Memory? ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	10	古今東西の事例や脳の科学的研究から、一般的な記憶力アップの工夫について考える。
		第4回考查			
	1	3	When East Met West in the Kitchen	10	日本人がどのように外国文化を受け入れてきたかを理解する。
	2	4	Space Elevator ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	9	雑誌記事の読み方および宇宙エレベーターの概要を理解する。
		年度末考查			
		総時間数		39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ (U)	1	普通科 理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
分割履修	一 斉 授 業・ティームティーチング	英 語 科		

教科書（発行所）	BIG DIPPER English CommunicationⅡ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	BIG DIPPER English CommunicationⅡ ワークブック（数研出版）, NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 3（Z会出版）

目 標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。 ・ティームティーチングの授業では、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、英語によるディスカッションやライティング活動を通して自分の意見を発表する能力の育成を図る。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第4回	BIG DIPPERⅡ:Lesson1～Lesson2, New Treasure3: Lesson10
		年度末考査	BIG DIPPERⅡ:Lesson3～Lesson4, New Treasure3: Lesson11～Lesson12
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	コミュニケーション英語Ⅱの授業はコミュニケーション英語Ⅰの活動を発展させたものです。コミュニケーション英語Ⅰの内容で理解できていないところがあるとコミュニケーション英語Ⅱではわからないところが増えてしまいます。復習も必ず必要です。また、提出物は期限を守って下さい。そのためには、計画的な取り組みが必要です。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
	11	1	Sakura	2	桜にまつわる意外な事実を通して、日本の歴史や文化、日本人の感性について考える。
		T10	Friendship between Turkey and Japan	10	トルコという国の概要と日本との友好の歴史を理解する。
	12	2	How Good is Your Memory? ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	2	古今東西の事例や脳の科学的研究から、一般的な記憶力アップの工夫について考える。
			第4回考査		
	1	T11	Dr. Rocket	10	「はやぶさ」とある科学者とのつながりを考える。
		3	When East Met West in the Kitchen	2	日本人がどのように外国文化を受け入れてきたかを理解する。
		T12	The Merchant of Venice	10	シェイクスピアの劇のあらすじをおい、登場人物の発言内容を理解する。
	2	4	Space Elevator ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	3	雑誌記事の読み方および宇宙エレベーターの概要を理解する。
			年度末考査		
			総時間数	39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	英語表現Ⅰ (S)	2	普通科 理数科	1
履修形態		授業形態	指導者名	
全		習熟度別授業	英語科	

教科書（発行所）	Revised Vision Quest English Expression I Standard（啓林館）
教科書以外の教材（発行所）	Vision Quest 総合英語 2nd Edition（啓林館） Vision Quest English Grammar 24 Workbook（啓林館）

目 標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	中学英語から高校英語へのスムーズな移行を考慮しながら、高校での英語学習の基盤となる基礎的な文法項目を、その構造と仕組みを理解し、自己表現できる能力の育成を視野に入れながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回	Lesson 1～2
		第2回	Lesson 3～5
		第3回	Lesson 6～8
		第4回	Lesson 9～10
		年度末	Lesson 11～12
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習を必ず実行して、授業に出席してください。わからない箇所を自分で参考書を読みながら確認した上で、授業に臨むことです。学校で学習した内容はその日のうちに復習プリントを用いて復習してください。 参考書を自分で読み進めながら英文法を体系的に理解使用とすることが大切です。そして、学習した内容を実際の言語の使用場面で運用してみてください。習ったことを実際に使用することで、それぞれの文法項目が自分のものとして習得されるはずです。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
通 期	4	L1	文の種類	3	肯定文・否定文・さまざまな疑問文や命令文を適切に作り、それに応答することができる。感嘆文で驚きや感動を表すことができる。
	5	L2	文型と動詞	6	5つの文型の構造を理解し、単文を正確に作ることができる。また、紛らわしい自動詞と他動詞の使い分けができる。
	1 回 考 査				
	6	L3	時制	6	基本時制の概念をイメージとして把握し、伝えたいことを適切な時制・進行形で発話できる。
	7	L4	完了形	6	現在・過去・未来完了形の概念をイメージで把握し、現在形や過去形と区別する。それぞれの用法とともに使われる語句を理解し、適切に文を作ることができる。
		L5	助動詞	9	助動詞それぞれの意味や用法を学び、適切に使い分けて話者の気持ちや判断を表すことができる。
	2 回 考 査				
	8	L6	受動態	6	受動態のさまざまな分の作り方を学び、必要に応じて使うことができる。感情表現など、日本語と英語の違いに気を付けて表現することができる。
	9	L7	不定詞	9	不定詞のさまざまな用法を学び、意味上のS＋Vを含む文を作ることができる。慣用表現を用いて伝えたいことを1文で表すことができる。
	10	L8	動名詞	6	動名詞のさまざまな用法を学び、動名詞句を用いて多様な文を作ることができる。
	3 回 考 査				
	11	L9	分詞	6	名詞を修飾する用法、補語になる用法を使うことができる。分詞構文を適切に用いて表現することができる。
		L10	関係詞	9	関係詞を用いた複文を作り、語句を限定したり補足説明を加えたりできる。また、複合関係詞を用いて譲歩の意味を表すことができる。
	12				
	4 回 考 査				
	1	L11	比較	6	複数のものを比較することで、物事の状態をわかりやすく伝えることができる。
		L12	仮定法	6	仮定法を用いて事実と違うことや実際には起こり得ないことを述べることができる。
	2				
	年 度 末 考 査				
	総時間数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
サイエンス	A F P 研究	2	普通科	1 年次
履修形態	授業形態	指導者名		
全 員	一斉授業（TT） グループ研究	理科、数学、情報 科		

目 標	科学や技術に関する基礎的な知識・技能を身に付け、客観的なデータから物事を分析する能力の育成		
学習のねらい	1. 情報モラルの学習や情報機器を活用して先行研究の調査を行う。 コンピュータを活用し、データのまとめや論文作成、プレゼンテーション等が行えるように知識を身につける 2. 各班で課題を設定し、科学的、統計的な方法にもとづいて課題を解決する能力を身につける 3. 「まとめ」では、コンピュータを活用してデータの収集や論文の作成を行い、プレゼンテーション等のソフトを利用して、創意と工夫をこらした発表を行い創造力や表現力を習得する。		
定 期 考 査	出題方針	情報教育の部分について定期考查を行う	
	範 囲	第2回	情報・情報モラル・基礎統計
評価の観点 評価の方法	◎情報の部分について定期考查を行う ◎評価の観点は、科学への関心・意欲・態度、科学的な思考・判断、科学的な技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ◎評価については、自己評価も行い、学習活動の状況など講義のまとめ、実習のレポート、論文、プレゼンテーションの成果などをルーブリックを活用して総合的に行う。		
先生方からの アドバイス	情報機器を思考ツールとして活用することができ、科学的・統計的探究法や、問題解決能力を身につけることが大切である。何事も積極的に活動することが、よい研究につながる。常にメモをとる習慣を身に付け、先を見通した活動をしてほしい。		

年間指導計画				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	オリエンテーション・コンピュータの使い方	2	コンピュータを用いて、図や表、グラフ、論文を書く方法を学ぶ。 各自の考えたテーマの発表とテーマを元にグループを作る。 図書館やインターネットを利用し、テーマに関する資料を収集する。 グループで検討した方法にしたがって実験・観察を行い、データを収集・記録する。 コンピュータを用いて、図や表、グラフなどにまとめる。 コンピュータを用いて、中間発表資料を作成する。 中間発表会を受け、論文ポスターを作成する。
	5	情報機器、情報通信ネットワーク活用基礎・基礎統計	6	
	6	科学的問題解決とコンピュータ研究テーマの検討と決定	10	
	7	資料収集と実験・観察の準備研究活動	42	
	8			
	9			
	10	データのまとめ 中間発表会	4	
	11	中間論文の作成	8	
	12	中間論文の提出		
	1	論文・ポスターの作成	6	
	2	論文とポスターの提出 クラス発表会		
		※2年次に全体発表会		
		総 時 間 数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
サイエンス	A F P 実践	1	普通科	1 年次
履修形態	授業形態	指導者名		
全 員	一斉授業 グループ研究	担任及びアドバイザーとして1年団の 教員及び実技教科の教員		

目 標	・理数に関する課題解決学習を通して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション力の育成を図る。
学習のねらい	1「AFP 研究」との連携をはかり、課題研究に必要な研究のレビューを行うとともに、研究、発表の準備を行う。
評価の観点 評価の方法	評価については、AFP 研究との連携があるが、学習活動の状況など講義のまとめ、実習のレポート、論文、プレゼンテーションの成果などを AFP 研究と同様ルーブリックを活用して総合的に行う。
先生方からの アドバイス	問題解決能力を身につけ論文、ポスターなどの成果を自分たちできちんとまとめることが大切である。グループでの活動なので協力しながら積極的に活動することが、よい研究につながる。

年間指導計画				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	クラス活動	2	・AFP 研究との連携から各自の考えたテーマを元にグループを作る。 ・AFP との連携より図書館やインターネットを利用し、テーマに関する資料を収集する。 ・グループで今後の実験について話し合い計画を立てる ・検討した方法にしたがって実験・観察を行い、データを収集・記録する。 ・AFP 研究の続きで研究結果を、図や表、グラフなどにまとめる。 ・コンピュータを用いて、発表資料を作成する。
	5	研究テーマの設定 グループ	2	
	6		2	
	7		2	
後期	8	先行研究のレビュー 研究計画の策定 研究活動	2 3	
	9			
	1 0			
	1 1	論文・ポスター作成	5	
	1 2			
	1			
	2	発表練習	3	
		総 時 間 数	3 9	

教 科 名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
サイエンス	発展研究	1	理数科	1 年次（後期）
履修形態	授業形態	指導者名		
全 員	グループ研究	理科、数学科		

目 標	理科および数学に関する事象について，自ら課題を設定し，調査・実験・観察・演習等を通じて研究し，科学的探究法や，問題解決能力を身につける。また，研究内容を論文にまとめ，発表会で報告することにより，創造力や表現力を習得する。
学習のねらい	1 テーマ設定 教科「理数」の科目である「理数数学」・「理数物理」・「理数化学」・「理数生物」・「理数地学」との関連を図りつつ，「課題研究基礎」で啓発された，興味・関心・知識・意欲の深化に留意しながら適切な研究方法を設定する。 2 実験・観察 「実験・観察」では，自発的な学習への取り組みを行い科学的探究法や，問題解決能力を身につける。 3 まとめ 「まとめ」では，コンピュータを活用してデータの収集や論文の作成を行い，プレゼンテーション等のソフトを利用して，創意と工夫をこらした発表を行い創造力や表現力を習得する。
評価の観点 評価の方法	◎評価の観点は，科学への関心・意欲・態度，科学的な思考・判断，科学的な技能・表現，知識・理解の4項目とする。 ◎評価については，自己評価も行う。
先生方からの アドバイス	科学的探究法や，問題解決能力を身につけることが大切である。何事も積極的に活動することが，よい研究につながる。常にメモをとる習慣を身に付け，先を見通した活動をしてほしい。

年間指導計画				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
後期	1 0	研究テーマの検討と決定	2	各自の考えたテーマの発表とテーマのディスカッションを行う。
		資料収集と実験・観察の準備	2	1 年間の計画を作成する。 図書館やインターネットを利用し，テーマに関する資料を収集する。 研究方法について検討する
	1 1	実験・観察	3 0	検討した方法にしたがって実験・観察を行い，データを収集・記録する。 コンピュータを用いて，図や表，グラフなどにまとめる。
	1 2	データのまとめ		
	1 2	中間発表会	2	コンピュータを用いて，中間発表資料を作成する。
	3	次年度に向けての検討と考察	3	中間発表会の内容を受け，研究方法等について再検討し，来年度の計画を再検討する。
		総 時 間 数	3 9	

